台 太 郎 遺 跡

DAITARO SITE

― 株式会社クリナップ盛岡営業所建設工事に伴う緊急発掘調査報告書 ―

２０１４．３

徳清倉庫株式会社

盛岡市教育委員会

例　　言

１．本書は，岩手県盛岡市向中野二丁目７－２地内に所在する台太郎遺跡の発掘調査報告書である。

台太郎遺跡第 77 次調査にかかる野外調査は，平成 25 年５月１日から６月４日まで実施し，調査面積は 516 ㎡である。室内整理作業は平成 25 年６月 10 日から９月 30 日まで行った。

２．本調査は，土地所有者である佐藤重昭氏（徳清倉庫株式会社　代表取締役社長）と盛岡市教育委員会との間に締結された協定書に基づき，盛岡市遺跡の学び館が野外調査，出土資料整理及び報告書編集を実施した。本調査にかかる費用は，事業主体者である佐藤重昭氏から支出された。

３．本書は遺構及び遺物の実測図などの資料呈示を意図して，編集は花井正香，佐々木紀子，津嶋知弘が担当し，千田和文，室野秀文，菊地幸裕，鈴木俊輝が協力した。

４．遺構の平面位置は，日本測地系を用い，平面直角座標Ｘ系を座標変換した調査座標で表示した。

調査座標原点　　Ｘ－35,500.000　＝　ＲＸ±0.000

Ｙ＋26,500.000　＝　ＲＹ±0.000

５．高さは標高値をそのまま使用している。

６．土層図は堆積のあり方を重視し，線の太さを使いわけた。土層註記は層理ごとに本文でふれ，個々の層位については割愛した。なお，層相の観察にあたっては『新版標準土色帖』（2013 小山正忠・竹原秀雄編著　日本色研事業㈱発行）を参考にした。

７．遺構の名称及び記号は次のとおりである。 また「竪穴建物跡」の名称については，『発掘調査のてびき－集落遺跡発掘編－』（2010 文化庁文化財部記念物課・独立行政法人国立文化財機構奈良文化財研究所編集）に倣っている。

遺　構	記号	遺　構	記号	遺　構	記号
竪穴建物跡	ＲＡ	土　　坑	ＲＤ	溝　　跡	ＲＧ
建　物　跡	ＲＢ	竪　　穴	ＲＥ		

８．遺構番号は，公益財団法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター（以下，「県埋文センター」という。）調査遺構番号との整合を図り，以下のとおりとした。

本調査精査遺構：３桁または４桁の遺跡内連続番号

（基本的に県埋文センター調査遺構番号に連続，一部欠番あり）

９．使用した地図は国土交通省国土地理院発行の５万分の１「盛岡」「日詰」の地形図である。

10．土器の区分は，土師器・あかやき土器・須恵器に分類した。「あかやき土器」の名称は，ロクロ使用の酸化煙焼成土器（坏類，甕類）に使用し，ロクロ使用の内面黒色処理の坏類は「土師器」に分類した。

11．出土遺物の写真撮影は，津嶋知弘が行った。

12．発掘調査に伴う出土遺物及び諸記録は，盛岡市遺跡の学び館で保管してある。

13．本調査の一部については，現地公開資料等により報告しているものがあるが，本書の記載内容をもって訂正する。

14.　調査体制

［調査主体］　盛岡市教育委員会

教育長	千葉 仁一	
教育部長	鷹觜 徹	
教育次長	柴田 道明	

［調査総括］　歴史文化課　遺跡の学び館

課長兼館長	袖上 寛	
主幹兼館長補佐	千田 和文	

［調　査］

文化財主査	室野 秀文	
文化財主査	菊地 幸裕	
文化財主査	津嶋 知弘	※資料整理
文化財主査	神原 雄一郎	（大船渡市派遣）
文化財主任	花井 正香	※調査・資料整理
文化財調査員	佐々木 紀子	※資料整理
文化財調査員	鈴木 俊輝	※調査

［管理・学芸］

主査	田山 淳一	
主任	江本 敦史	
学芸調査員	山岸 佳澄	
文化財調査員	木幡 里美	
学芸調査員	山野 友海	

［発掘調査・室内整理作業］

阿部有子，天沼芳子，泉山紀代子，伊藤敬子，内山陽子，大西夏絵，長内理恵，及川京子，川村久美子，熊谷あさ子，小林勢子，小松愛子，佐藤和子，佐藤公一，佐藤美智子，佐野光代，竹花栄子，谷藤貴子，千葉智子，千葉留里子，樋口泰子，日野杉節子，細田幸美，山田聖子

［御指導・御協力］

岩手県教育委員会，公益財団法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター
佐藤重昭，徳清倉庫株式会社，株式会社北進測量設計

［発掘調査に係る業務委託］

株式会社タックエンジニアリング（土器実測）

（五十音順，敬称略）

目　　次

例　　言
目　　次
表　目　次
挿　図　目　次
写真図版目次

Ⅰ．遺跡の環境
　１．地理的環境 …… 1
　２．歴史的環境 …… 2
Ⅱ．調査内容
　１．これまでの調査 …… 4
　２．調査経過 ……10
　３．遺跡の基本層序と遺構検出状況 ……10
　４．検出された遺構と遺物
　（１）平安時代の遺構・遺物 ……11
　（２）古代以降の遺構・遺物 ……26
Ⅲ．調査のまとめ ……28

表　目　次

第１表　台太郎遺跡調査成果一覧 …… 9
第２表　出土土器観察表 ……29

挿　図　目　次

第 1 図　台太郎遺跡位置図（1：100,000）　……1
第 2 図　地形分類と周辺の遺跡分布　……3
第 3 図　台太郎遺跡全体図（1：2,000）　……5
第 4 図　台太郎遺跡第 77 次調査全体図　……7
第 5 図　ＲＡ668 竪穴建物跡　……11
第 6 図　ＲＡ669 竪穴建物跡（Ⅰ期）　……14
第 7 図　ＲＡ669 竪穴建物跡（Ⅱ・Ⅲ期）　……15
第 8 図　ＲＡ668・669 竪穴建物跡出土土器（1）　……16
第 9 図　ＲＡ669 竪穴建物跡出土土器（2）　……17
第10 図　ＲＢ141 掘立柱建物跡　……19
第 11 図　ＲＥ094・095 竪穴跡　……21
第 12 図　ＲＥ096 竪穴跡，出土土器　……23
第 13 図　ＲＤ2179～2183 土坑，ＲＧ614 溝跡　……25
第 14 図　ＲＤ2180・2182 土坑出土土器　……26
第 15 図　ピット土層断面　……27

写　真　図　版

第 1 図版　盛南開発地区航空写真
第 2 図版　第 77 次調査区全景
第 3 図版　平安時代の遺構群全景，ＲＡ669 竪穴建物跡 土師器把手付土器出土状況
第 4 図版　ＲＡ668 竪穴建物跡全景，ＲＡ669 竪穴建物跡検出状況，ＲＡ669 竪穴建物跡Ⅰ期全景
第 5 図版　ＲＡ669 竪穴建物跡Ⅱ・Ⅲ期全景，ＲＡ669 竪穴建物跡カマド全景，ＲＢ141 掘立柱建物跡全景
第 6 図版　ＲＥ094 竪穴跡全景，ＲＥ095 竪穴跡全景，ＲＥ096 竪穴跡全景
第 7 図版　ＲＤ2179 土坑全景，ＲＤ2180 土坑全景，ＲＤ2181 土坑全景
第 8 図版　ＲＤ2182 土坑全景，ＲＤ2183 土坑全景，ＲＧ614 溝跡全景
第 9 図版　ＲＡ669 竪穴建物跡出土土器，ＲＥ096 竪穴跡出土土器
第 10 図版　ＲＡ669 竪穴建物跡出土土師器把手付土器
第 11 図版　ＲＡ669 竪穴建物跡，ＲＥ096 竪穴跡出土土器
第 12 図版　ＲＡ668・669 竪穴建物跡，ＲＥ096 竪穴跡，ＲＤ2180・2182 土坑出土土器
第 13 図版　ＲＡ669 竪穴建物跡，ＲＥ096 竪穴跡出土刻書土器
第 14 図版　調査風景，現地公開

《遺物の表現について》

（１）　土器

ａ．出土土器の区分は，土師器・あかやき土器・須恵器に大別した。

ｂ．土器の実測図・拓本は 1/3 スケールとした。

ｃ．挿図の土器配列については，器種・器形・文様モチーフ及び施文技法でまとめた。

ｄ．土師器の黒色処理されたものは，網目（スクリーントーン）で表現した。

（２）　挿図中の記号・番号は遺物の出土位置及び出土層位を表している。

（例）　ＲＡ668　Ｃ層　　→ＲＡ668 竪穴建物跡内埋土Ｃ層より出土

（例）　Ｇ２－Ｗ９　Ⅳ層

↓　↓　↓

※１　※２　※３

※１　調査座標原点ＲＸ±０　ＲＹ±０を起点として，Ｘ・Ｙ両軸を 50m毎に区切る大グリッドを設定し，Ｘ軸線上を西から東へＡ・Ｂ・Ｃ…Ｗ・Ｘ・Ｙ（東から西への場合は－Ａ・－Ｂ・－Ｃ…－Ｗ・－Ｘ・－Ｙ），Ｙ軸線上を北から南へ１・２・３…23・24・25（南から北への場合は－１・－２・－３…－23・－24・－25）と付し，北西隅のこれらのアルファベットとアラビア数字の組合せを，大グリッドと呼称した（第３・４図）。

※２　大グリッドを２ｍ毎に細分割し，小グリッドを設定し大グリットの呼称を再び用いた。よって，大グリッド－小グリッドという組合せで，遺物の平面出土地点を２ｍごとに表示した。

※３　遺物の出土層位を表している。

《遺構の表現について》

遺構の挿図中，説明する当該遺構については，実線で表現した。なお説明遺構と切り合った遺構については一点鎖線で表現した。

Ⅰ　遺跡の環境

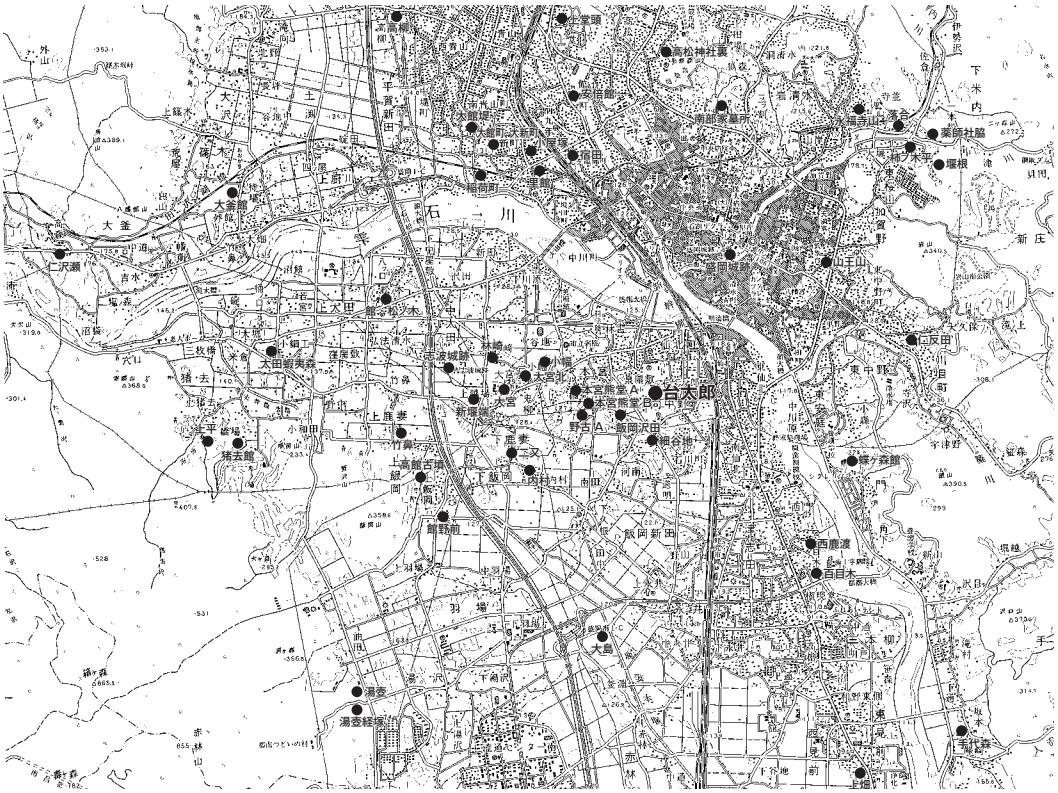
１　地理的環境

遺跡の位置　台太郎遺跡は，盛岡市街地より南西約２km の向中野地内に所在する（第１図）。かつては水田・畑・宅地などの農地が主体を占めていたが，近年は盛岡南新都市開発整備事業（以下，「盛南開発」という。）に係る土地区画整理事業のため，急速に宅地化が進められている。遺跡の範囲は東西約 800m，南北約 500mと推定され，標高は 119～123mである。現況は宅地，学校及び商業地である（第３図）。

地形・地質　盛岡市は東に北上山地，西に奥羽山脈を擁し，北西には岩手山（2,038m）を望む。中央の北上平野には東北一の大河である北上川が流れる。北上山地と奥羽山脈は，構成する地質やその形成年代が異なるため，東西の地形の様相は大きく異なる。また，岩手山を含む八幡平火山地域の火山活動も盛岡の地形・地質に大きく影響を及ぼしている。

雫石川は奥羽山脈より東流し，その流れは烏泊山と箱ヶ森に挟まれた北の浦（市内上太田）で急激に挟められ，その狭窄部を抜けて北上川と合流する。雫石川はこれまでに何度も流路を変えており，雫石川南岸に広がる沖積段丘の形成に大きな影響を及ぼしている。台太郎遺跡はその沖積段丘上に立地している（第２図）。

この沖積段丘は，水成砂礫層を基底とし，その上層に水成シルト，さらに表土が覆っている。このシルト層は旧河道などの低地形ばかりでなく，微高地上にも堆積している。これは沖積段丘が，河道の定まらない雫石川の下刻が周辺山地からもたらす砂礫やシルトによって形成され，何度も堆積が繰り返されたことによるものである。雫石川の旧河道は幾筋も確認されており，大きなものは４条，そのほかにも網目状に細かな旧河道が沖積段丘に広がっている。それらに画された微高地上に古代を中心とした遺跡が点在している。


台太郎
石
川
大
釜
仁沢瀬
高松神社裏
南部家墓所
盛岡城跡
山王山
仁反田
東中野
西鹿渡
吉目木
大島
湯舟
湯舟経塚
羽場
飯岡新田
飯岡
上高館古墳
館野前
上平
猪去館
上厩
竹鼻
上鹿妻
鹿妻
新鹿妻
大宮
本宮熊堂A
本宮熊堂B
野古A
飯岡沢田
恒谷地
小鳴
太宮北
三枚橋
太田蛸実森
上大田
新田
中川原
中川
平賀
新田
高柳
高柳
大清水
上蔵
上厩
上田
上田
上田

２　歴史的環境

周辺の遺跡　本遺跡の立地する沖積段丘上では，縄文時代～古墳時代にかけての遺構遺物の発見は少なく，遺跡のほとんどは７世紀中葉以降の集落遺跡といえる。

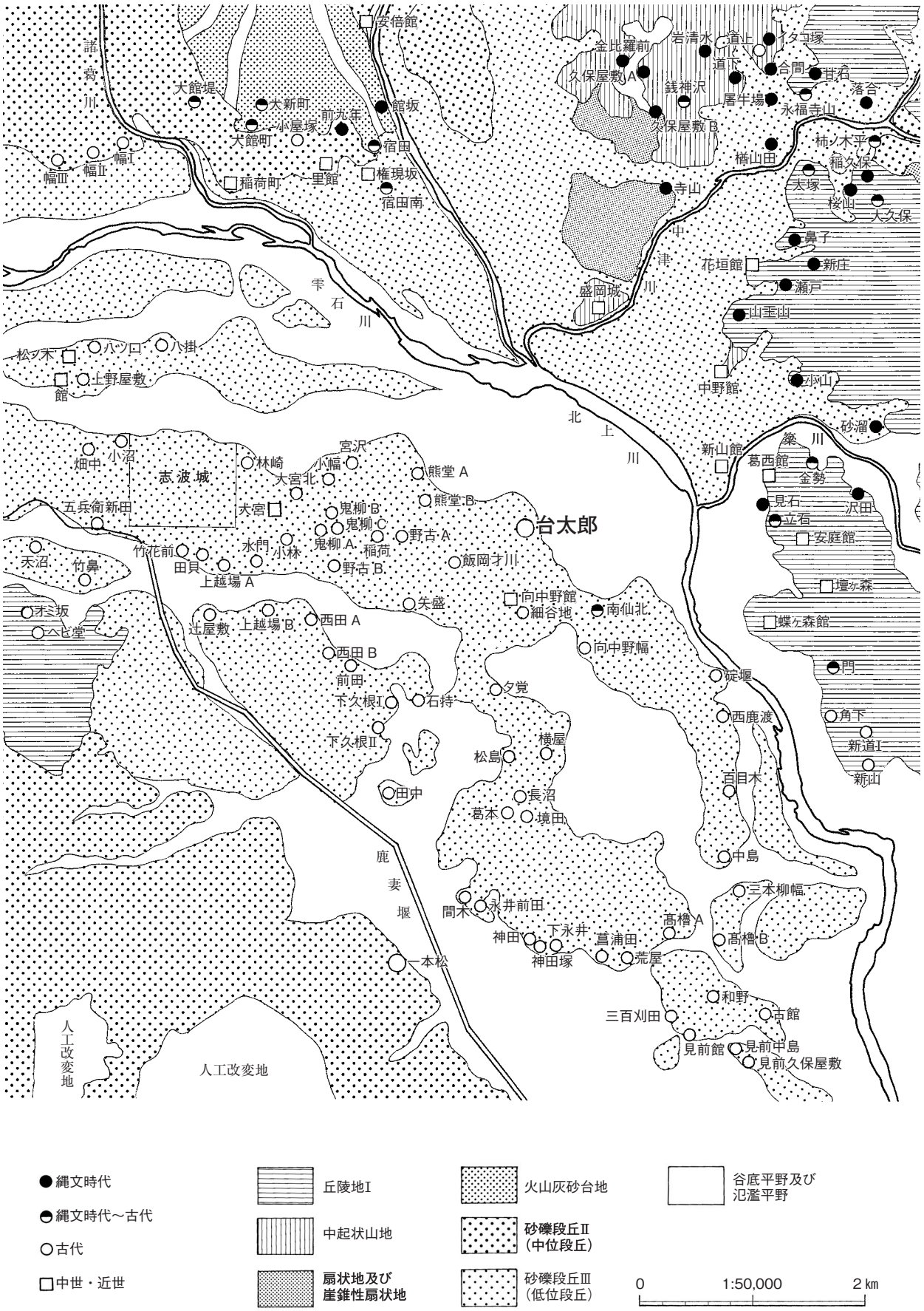
縄文～弥生　縄文・弥生時代の遺構・遺物は，本宮熊堂Ａ遺跡，台太郎遺跡及び細谷地遺跡で縄文時代晩期を中心とする竪穴建物跡や遺物包含層が検出されている。その他の各遺跡からは遺物が散見する程度であり，主体的なものではない。また，詳細な時期を特定する要素は乏しいが，飯岡才川遺跡など多くの遺跡で縄文時代の陥し穴が確認されている。

古　　代　古墳時代末，７世紀中葉の遺構・遺物は，数は多くはないが台太郎遺跡などで確認されている。これ以降集落が継続的に営まれる。奈良時代，８世紀中葉以降竪穴建物跡を主体とした集落跡が増加する。この時期の集落は，大型竪穴建物跡を中心としてその周囲に小～中型の竪穴建物跡が数棟ずつまとまりをもって分布する傾向がある。

９世紀，平安時代初頭の延暦 22 年(803)には，本遺跡の西方約 1.2 ㎞に「志波城」（下太田方八丁他)が造営される。志波城は東北経営のために朝廷が造営した古代城柵であり，当時「蝦夷（エミシ)」と呼ばれていた人々の社会に大きな影響を与えたと考えられる。征夷大将軍であった坂上田村麻呂が朝廷の命を受け造営した志波城は，北側を流れる雫石川の度重なる洪水の被害を受け，およそ 10 年で文室綿麻呂の建議により徳丹城(矢巾町西徳田)に移転したことが記録に見られる。その後，徳丹城は９世紀中葉までにはその機能を停止し，本地域も含む北上盆地一帯は，鎮守府胆沢城(奥州市水沢区九蔵田)による一城統治の体制となる。以降，９世紀中葉から本地域では竪穴建物跡を主体とした集落数が増加の一途をたどる。それにともない竪穴建物跡の規模の大小差は縮小するようになり，重複が著しく見られるようになる傾向がある。その中でも，向中野館遺跡の低湿地から古代の祭祀に関係すると考えられる遺物の出土や，飯岡沢田遺跡・飯岡才川遺跡の円形周溝墓群や火葬骨蔵器など，本地域内の集落機能の分化もみられる。また，９世紀後葉から 10 世紀中葉にかけては，地区の拠点的な集落も姿を現すようになる。細谷地遺跡では，微高地の南斜面に沿うように２×２間の総柱の掘立柱建物跡が東西に並立し，倉庫群が存在したと考えられる。また大宮北遺跡や，志波城跡の北東に隣接する林崎遺跡で，規模の大きな官衙的な掘立柱建物を計画的に配置した集落も発見されており，在地有力者の拠点と考えられる。

中　　世　11～12 世紀にかけての，様相ははっきりしないが，12 世紀末～13 世紀初頭頃のものと考えられるかわらけが，大宮遺跡の大溝跡から多量に出土している。13 世紀後半には，台太郎遺跡で不整長方形の平面形となる居館が営まれ，地域を支配した豪族の存在が想定される。さらに同遺跡では，土坑墓群や宗教施設と考えられる遺構も検出されており，出土遺物から 15 世紀頃までの存続が考えられる。また向中野館遺跡や矢盛遺跡でも，堀跡が検出されており，出土遺物やその平面形から 16 世紀代を中心とする居館と考えられている。

近　　世　江戸時代には，雫石川は現在の流路となり，旧河道の東側には奥州道中（街道）や仙北組丁が開かれ，本地域は水田地帯に農家が点在する農村地帯となる。各遺跡からは曲屋などの掘立柱建物跡や土坑墓，南仙北遺跡では道路跡などの近世の遺構が発見されており，この姿は盛南開発が行われる直前の本地域の様子と大きく違いが無いものと考えられる。



第２図　地形分類と周辺の遺跡分布

Ⅱ　調査内容

１．これまでの調査

発見の経緯　台太郎遺跡は，昭和 60 年度の仙北西地区土地区画整理事業時の工事現場にて，平安時代の竪穴建物跡が発見され周知された遺跡である。平成５年度からは，盛南開発に伴う発掘調査が主体を占め，以後平成 25 年度末で 80 次にわたって調査されている。

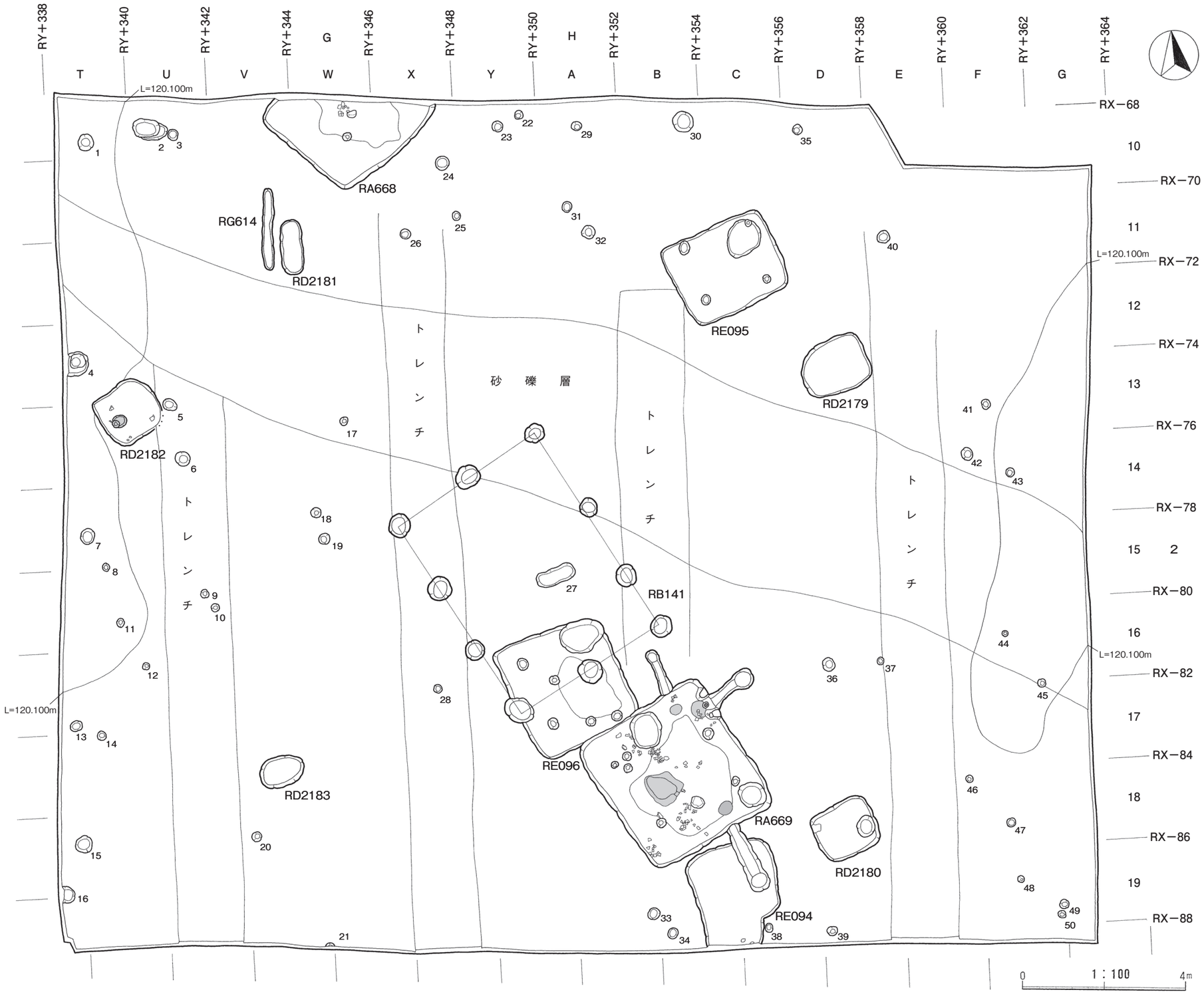
これまでの県埋文センター・市教委の発掘調査により，７～10 世紀の古代集落，中世の居館を中心とした集落跡や墓域，近世の村落跡などが確認されている。

古　　代　古代（奈良・平安時代）の竪穴建物跡は平成 25 年度末で 700 棟以上を数え，そのほかに掘立柱建物跡（２×２間総柱）や大溝跡などが確認されており，当時の「志波（斯波）」地域最大の集落といえる。遺構の分布をみると，７世紀末～８世紀の竪穴建物跡は，いくつかの群をつくりながら南西部を除く遺跡全域に分布し，重複はみられない。それに対し，９～10 世紀の竪穴建物跡は，遺跡の西部と中央～北部の段丘縁辺部に分布が集中し，多くの重複がみられる。個別の竪穴建物跡の特徴をみると，７世紀末～８世紀は北西カマドが圧倒的で北東～南カマドもわずかにあるが，カマドの造り替えは少ない。９～10 世紀は北西～北カマド，南東カマドなどさまざまで，大型竪穴建物跡にカマドの造り替えが多い。

中　　世　中世（鎌倉～戦国時代）になると，12 世紀後半の渥美窯産の灰釉小型壺が遺跡北東より単独出土している。遺跡の立地状況と遺物の年代から推測すると，経筒外容器として経塚に納められていたものと考えられる。ほぼ同時期に，遺跡南東部では堀跡によって，方形に南北２つに区画して，その内側には掘立柱建物跡が並立する。堀跡からは奥州藤原氏と同時期の手捏ねのかわらけや渥美窯産の陶器が出土し，後述する居館に先行する施設と考えられる。13 世紀後半には，遺跡中央部に不整長方形プランの在地領主の居館が営まれ，周辺域にはこれに関連する区画溝や道路跡，掘立柱建物跡，竪穴跡等が分布している。また，遺跡南部には中世の土坑墓群，掘立柱建物跡，竪穴跡，さらに現在の「諏訪神社」の周囲を囲むような堀跡や，社殿または仏堂らしい掘立柱建物跡も確認されている。これらは出土した陶磁器の年代から 15 世紀頃まで存続したと考えられる。居館北東側には幅６ｍ内外で並行する道路側溝状の溝跡があり，この溝の東側には並行して区画整理工事前の道路も存在していた。この道は，遺跡北東部の段丘崖や居館の堀，周辺の区画溝とも並行しており，居館や周辺村落と並存していた道路跡と考えられる。また，本遺跡の南方には，向中野館遺跡（北館，南館）が存在しているが，館跡を構成する曲輪が方形を基調としたプランであることや，北館付近では堀や土橋，小さな曲輪などの複雑な配置であることから，およそ 16 世紀を中心とした年代が考えられる。

近　　世　近世（江戸時代）には雫石川は現在の流れとなり，旧河道の東側には奥州道中（街道）が通じ，城下の玄関口にあたる仙北組丁が開かれる。これにより向中野はこの町の郊外となった。この時代の遺構としては，掘立柱建物跡の曲屋跡や直屋跡などが遺跡内に点在するようになる。水田地帯の中に農家が点在する近世の「向中野村」の一部と考えられる。

第３図　台太郎遺跡全体図



第４図　台太郎遺跡第77次調査全体図

次数	所在地	調査原因	面積(㎡)	期間	検出遺構・遺物	調査主体
1	向中野字台太郎7-1	土地区画整理	734	1985.5.24-6.25	平安竪穴建物跡3,土坑1,溝跡1	市教委
2	向中野字台太郎7-1	土地区画整理	515	1985.7.1-7.31	平安竪穴建物跡6,竪穴跡1ほか	市教委
3	向中野字台太郎18-1	倉庫建設	125	1985.11.13-11.30	奈良竪穴建物跡1,平安溝1	市教委
4	向中野字台太郎18-3	共同住宅等	1,130	1986.6.2-7.29	竪穴建物跡(奈良7,平安5)ほか	市教委
5	向中野字台太郎11-7,71-7	個人住宅建築	50	1989.5.10-5.11	平安竪穴建物跡1	市教委
6	向中野字台太郎7-1 外	個人住宅建築	302	1990.5.7-5.26	平安竪穴建物跡7,土坑12ほか	市教委
7	向中野字向中野36-3	個人住宅建築	138	1991.4.25-5.8	奈良竪穴建物跡1,溝2	市教委
8	向中野字台太郎12-2 外	事務所建設	830	1991.6.17-6.27	竪穴建物跡(奈良3,平安2,古代3)ほか	市教委
9試掘	向中野字向中野40	小屋建築	50	1993.5.11	遺構・遺物なし	市教委
10試掘	向中野字向中野地内	盛南開発	1,200	1995.4.4-4.6	奈良竪穴建物跡8,土坑7,溝跡12ほか	市教委
11試掘	向中野字台太郎9-3 外	倉庫建設	320	1995.6.19-6.27	遺構・遺物なし	市教委
12試掘	向中野字八日市場地内	盛南開発	5,174	1995.9.1-11.30	古代竪穴建物跡53,土坑34,溝跡58ほか	市教委
13試掘	向中野字向中野1-45 外	盛南開発	4,064	1996.10.14-10.25	平安竪穴建物跡11,土坑21,溝跡38ほか	市教委
14	向中野字台太郎18-1	下水管埋設	25	1996.11.25-11.29	平安竪穴建物跡1,平安溝跡1	市教委
15	向中野字八日市場33-2 外	盛南開発	12,906	1997.4.4-11.26	竪穴建物跡(奈良10,平安52),土坑43ほか	県埋文
16	向中野字向中野36-1 外	盛南開発	790	1997.8.1-8.29	奈良竪穴建物跡2,溝跡2,堀跡1ほか	県埋文
17試掘	向中野字向中野地内	下水管埋設	10	1997.8.23	遺構・遺物なし	市教委
18	向中野字向中野26-6 外	盛南開発	26,404	1998.4.15-11.20	竪穴建物跡(古墳～奈良42,平安65)ほか	県埋文
19	向中野字向中野16-6 外	盛南開発	4,755	1998.7.2-8.31	奈良・平安竪穴建物跡20,竪穴跡5ほか	県埋文
20	向中野字向中野地内	盛南開発	1,400	1998.9.17-12.21	古代掘立柱建物跡4,柱列跡1,土坑12ほか	市教委
21試掘	向中野字台太郎18-7	車庫建築	28	1998.9.25	遺構・遺物なし	市教委
22	向中野字向中野39-1 外	警察宿舎建設	2,500	1999.9.1-11.2	縄文土坑1,奈良竪穴建物跡1ほか	県埋文
23	向中野字向中野16-15	盛南開発	27,800	1999.4.16-11.15	竪穴建物跡(古墳～奈良35,平安27)ほか	県埋文
24	向中野字向中野地内	盛南開発	3,425	1999.5.6-7.16	竪穴建物跡(奈良・平安20)ほか	市教委
25	向中野字八日市場地内	盛南開発	3,674	1999.7.7-12.15	竪穴建物跡(奈良・平安73)ほか	市教委
26	向中野字向中野16-15 外	盛南開発	13,662	2000.4.19-10.30	竪穴建物跡(古墳～奈良34,平安34)ほか	県埋文
27	向中野字八日市場地内	盛南開発	2,513	2000.6.12-11.14	奈良・平安竪穴建物跡21,土坑23ほか	市教委
28	向中野字八日市場地内	盛南開発	460	2000.6.29-9.8	平安竪穴建物跡9,掘立柱建物跡2ほか	市教委
29	向中野字向中野20-2	盛南開発	125	2000.7.19-8.25	奈良竪穴建物跡1,近世土坑3ほか	市教委
30	向中野字八日市場43-1	盛南開発	35	2000.7.25-7.31	平安竪穴跡1,ピット	市教委
31	向中野字八日市場45-2	盛南開発	128	2000.8.1-8.8	奈良・平安竪穴建物跡2,溝跡2	市教委
32	向中野字八日市場42 外	盛南開発	1,030	2000.9.18-10.20	奈良・平安竪穴建物跡6,土坑7ほか	市教委
33	向中野字八日市場50	盛南開発	695	2000.9.22-10.13	古代竪穴建物跡3,溝跡3	市教委
34試掘	向中野2丁目4-1 外	共同住宅建設	156	2000.11.20-11.22	古代竪穴建物跡3,溝跡1	市教委
35	向中野字向中野37-3 外	盛南開発	4,394	2001.4.17-8.2	竪穴建物跡(奈良5,平安10),土坑4ほか	県埋文
36	向中野字向中野37-3 外	盛南開発	290	2001.5.22-6.5	ピット4	県埋文
37	向中野字向中野20-1 外	盛南開発	872	2001.5.28-6.22	奈良竪穴建物跡1,土坑5,溝跡2	市教委
38	向中野字向中野15-1,3-4	盛南開発	309	2001.6.1-6.15	遺構・遺物なし	市教委
39	向中野字向中野20-1 外	盛南開発	1,302	2001.8.1-11.2	奈良・平安竪穴建物跡12,土坑10ほか	市教委
40	向中野字八日市場41-2	個人住宅建築	300	2001.8.1-9.19	平安竪穴建物跡3,土坑4,竪穴跡1ほか	市教委
41	向中野字八日市場45-9	個人住宅建築	220	2001.8.2-9.19	竪穴建物跡(奈良4,平安2),土坑3ほか	市教委
42	向中野字八日市場28-4	盛南開発	123	2001.11.26-12.12	平安竪穴建物跡1,土坑2,溝跡3	市教委
43	向中野字向中野22 外	盛南開発	112	2001.11.26-12.12	遺構・遺物なし	市教委
44	向中野字八日市場41-1	盛南開発	2,907	2002.4.9-8.5	竪穴建物跡(古墳～奈良11,平安9)ほか	県埋文
43補	向中野字向中野22 外	盛南開発	42	2002.4.22	遺構・遺物なし	市教委
45	向中野字八日市場30-2 外	盛南開発	1,618	2002.5.7-8.9	平安竪穴建物跡13,竪穴跡4,土坑36ほか	市教委
46	向中野字向中野35-2 外	盛南開発	334	2002.10.11-11.12	奈良竪穴建物跡2	市教委
47試掘	向中野二丁目1-7	共同住宅建設	184	2002.11.6	遺構・遺物なし	市教委
48試掘	向中野二丁目5-8・9	店舗建設	326	2002.11.21-11.22	古代竪穴建物跡12,土坑3,溝跡6ほか	市教委
49試掘	向中野一丁目17-2の一部	共同住宅建設	48	2002.12.24-12.25	遺構・遺物なし	市教委
50	向中野字向中野37-5 外	盛南開発	540	2003.6.2-11.10	古代土坑2,溝跡2,ピット	県埋文
51	向中野字八日市場8-4 外	盛南開発	6,616	2003.4.11-11.10	竪穴建物跡(縄文4,奈良～平安22)ほか	県埋文
52	向中野字八日市場7-1 外	国道建設	595	2003.8.1-9.3	平安竪穴跡1,溝跡8	県埋文
53	向中野字向中野37-3 外	盛南開発	240	2004.5.6-6.2	古代溝跡5,土坑1	県埋文
54	向中野字向中野19 外	盛南開発	5,052	2004.4.12-8.6	竪穴建物跡(古墳～奈良4,平安9)ほか	県埋文
55	向中野字向中野35-26	個人住宅建築	203	2004.6.7-7.9	古墳～奈良竪穴建物跡1, 竪穴跡1ほか	市教委
56	向中野字向中野20-2 外	盛南開発	50	2005.6.20-6.21	平安土坑1	市教委
57	向中野字向中野9 外	盛南開発	1,047	2005.6.6-8.5	平安竪穴建物跡6,掘立柱建物跡2ほか	市教委
58	向中野字向中野40-16 外	盛南開発	3,945	2006.8.7-11.24	竪穴建物跡(奈良10,平安1)ほか	県埋文
59	向中野字向中野9 外	盛南開発	1,830	2007.7.5-9.26	奈良竪穴建物跡2,掘立柱建物跡2ほか	市教委
60	向中野字向中野40-8 外	盛南開発	791	2007.8.1-9.6	土坑4,ピット	市教委
61	向中野字向中野17-4 外	盛南開発	610	2007.10.26-11.16	奈良竪穴建物跡1,土坑4,ピット	市教委
62	向中野字向中野40-7 外	盛南開発	862	2008.6.18－7.9	土坑1,ピット	市教委
63	向中野字向中野17-1 外	盛南開発	1,698	2008.7.3-10.31	古代竪穴建物跡2,竪穴跡1,土坑4ほか	市教委
64	向中野字向中野21-2 外	盛南開発	621	2008.11.19-12.12	土坑1	市教委
65	向中野字向中野40-16 外	盛南開発	330	2009.4.17	遺構・遺物なし	市教委
66	向中野字向中野42-25 外	盛南開発	11,911	2009.6.1-11.27	古代竪穴建物跡5,掘立柱建物跡72ほか	県埋文
67	向中野字八日市場23-1 外	盛南開発	856	2009.5.7-7.28	古代竪穴建物跡2,土坑2,溝跡1	市教委
68	向中野字八日市場30-1 外	盛南開発	1,234	2009.7.1-11.6	古代竪穴住居跡13,竪穴跡3,土坑10ほか	市教委
69	向中野字向中野18-4 外	盛南開発	76	2009.10.1	遺構・遺物なし	市教委
70	向中野字向中野13-1 外	盛南開発	1,914	2009.10.21-12.24	古代竪穴建物跡4,竪穴跡4,溝跡2	市教委
71試掘	向中野一丁目10・15 外	店舗建設等	1,341	2010.8.9-8.12・18	古代竪穴建物跡32,土坑7,溝跡8ほか	市教委
72	向中野字向中野35-34 外	盛南開発	506	2010.10.21-12.17	奈良竪穴建物跡1,竪穴跡2,土坑5ほか	市教委
73試掘	向中野一丁目15,16-12 外	宅地造成	587	2011.4.4-4.5	古代竪穴建物跡7,溝跡2	市教委
73			4,360	2011.5.9-7.21	平安竪穴建物跡8,竪穴跡7,土坑21ほか	
74	向中野字八日市場30-1 外	盛南開発	1,120	2011.5.30-7.15,9.6-11.11	竪穴建物跡(奈良7,平安3),土坑16ほか	市教委
75試掘	向中野一丁目9-19	共同住宅建設	21	2012.11.22	遺構・遺物なし	市教委
76試掘	向中野二丁目6-2	宅地造成	177	2013.3.12-3.13	古代竪穴建物跡10,溝跡1	市教委

第１表　台太郎遺跡調査成果

２．調査経過

試掘調査　平成 22 年６月，当市教育委員会において，当該地を含む向中野一丁目 10・15 番地，二丁目７番２（開発面積約 12,209 ㎡）について土地所有者　佐藤重昭氏から店舗建設及び宅地造成に関する事前協議が持たれた。この協議を受け，平成 22 年８月９～12，18 日にかけて開発予定地内を試掘調査した結果（第 71 次調査），予定地内から古代の遺構・遺物が多数検出されたことから工事着手前の緊急発掘調査が必要とされた。

発掘調査　当該地については，株式会社クリナップ盛岡営業所建設工事として，平成 25 年１月８日付けで発掘届が提出され，平成 25 年５月１日，土地所有者　佐藤重昭氏と当市教育委員会教育長との間で「埋蔵文化財に関する協定書」が締結された。遺跡の学び館が本調査を実施し，調査期間は平成 25 年５月１日～６月４日，調査面積は 516 ㎡である。

成果公開　平成 25 年５月 27 日には現地公開を開催し，一般 77 名，盛岡市立向中野小学校６年生 65 名　合計 142 名が訪れた。また土地所有者　佐藤氏，株式会社クリナップ盛岡営業所の配慮によって，完成した営業所内には，調査成果をまとめたパネルが設置されている。

３．遺跡の基本層位と遺構検出状況

台太郎遺跡第 77 次調査区は,遺跡中央部から東に向かって緩やかに傾斜する遺跡東部に位置し，第 8 次調査区の南東に隣接する。調査地は平成 22 年まで麦畑または水田として使われ，その後第 73 次調査の表土除去によって生じた排土で盛土されている。調査区内の標高値は 120.100ｍ前後である。

基本層序　調査区内で確認された基本層序は以下のⅠ～Ⅲ層に大別される。Ⅰ層は a～c 層に３細分され，Ⅰa 層は前述した第 73 次調査に伴う盛土で，層厚は一定しないが約 90～100 ㎝の盛土である。Ⅰb・c 層は耕作に伴うもので，Ⅰb 層は麦畑または水田の耕作土，Ⅰc 層は酸化鉄を多量に含む水田床土である。Ⅱ層はやや粘性がある褐色シルト層（地山）で，その上面が遺構検出面である。これより下部は砂礫層（Ⅲ層）であるが，調査区の北西から東にかけて横断するようにⅢ層が広がっている。Ⅲ層の下部は本調査で確認していないが，周辺の調査事例からシルト層と砂礫層の互層となることが確認されている。

検出状況　過去の農地開発時に削平されており，水田床土のⅠc 層を除去したⅡ層上面で検出作業が行われた。検出された遺構は，平安時代の竪穴建物跡２棟（ＲＡ668・669），掘立柱建物跡１棟（ＲＢ141），竪穴跡３棟（ＲＥ094～096），土坑３基（ＲＤ2179・2180・2182），溝跡１条（ＲＧ614），古代以降の土坑２基（ＲＤ2181・2183），ピット 50 口である（第４図）。

検出遺構

出土遺物の時代・時期は，平安時代（９世紀後半～10 世紀前半）にかけての須恵器，土師器，あかやき土器が主体で，近世以降の遺物は検出面Ⅱ層上面から常滑焼擂鉢の体部破片が１点出土している。遺物総数は収納コンテナ（54cm×34cm×15cm）６箱分である。

４．検出された遺構と遺物

（１）　平安時代の遺構・遺物

ＲＡ６６８竪穴建物跡（第５図）

位　　置　調査区北（Ｇ２－Ｗ９区）　**平 面 形**　方形（調査区外）　**主軸方向**　－

規　　模　北西－南東 2.95m，南西－北東 3.10m以上（調査区）　**重複関係**　なし

掘 込 面　削平　**検 出 面**　Ⅱ層上面

埋　　土　自然堆積でＡ～Ｃ層に大別され，Ｂ層はさらに２層に細分される。

Ａ層－粒～小塊状の褐色シルトを少量含む，黒褐色土と暗褐色土の混合土。粒状の焼土・カーボンを少量含む。

Ｂ層－暗褐色土と褐色シルトの混合土を主体とする層で，B_1層は粒状の黒色土とカーボンを微量含み，B_2層は粒～小塊状の黒褐色土を少量含む。

Ｃ層－黒褐色土を主体とし，塊状の褐色シルトを多く含む。

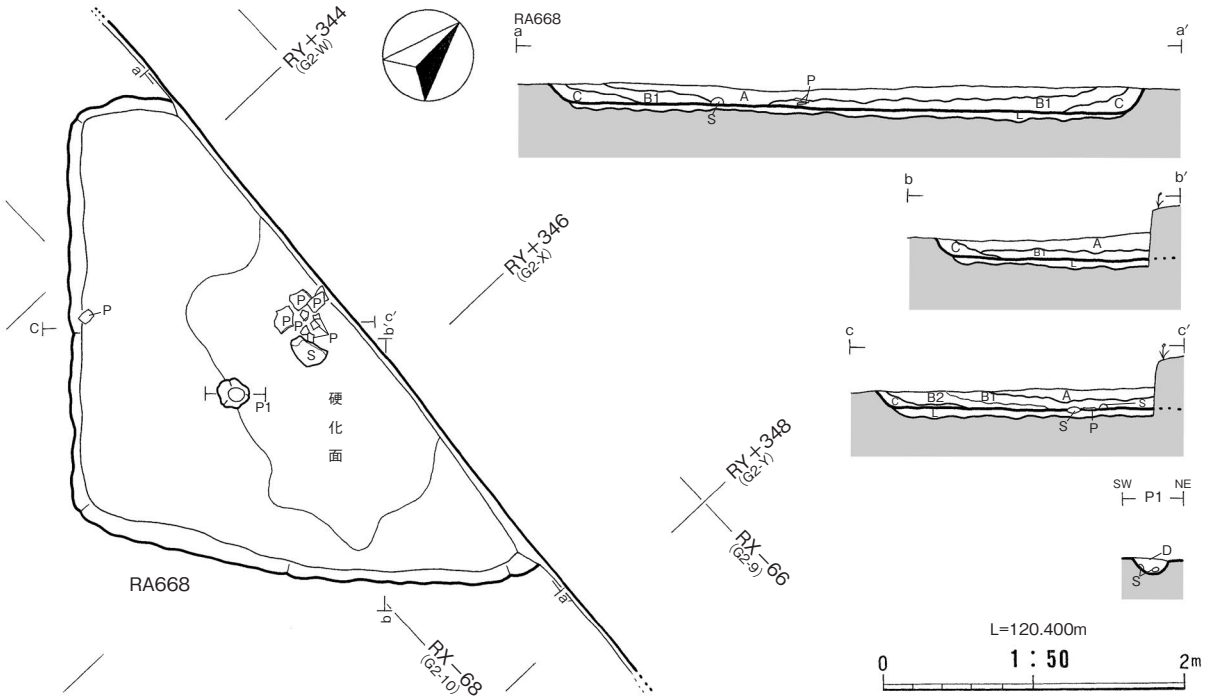
壁の状態　検出面から床面までの深さは 0.10～0.19mで，外傾して立ち上がる。

床の状態　ほぼ平坦で中央に硬化面が広がる。構築土（Ｌ層）はにぶい黄褐色シルトと褐色シルトの混合土を主体とし，小塊状の黒褐色土を少量含む。層厚は 0.03～0.07mである。

カ マ ド　不明（調査区外）

柱　　穴　Ｐ１が検出されている。直径 0.16～0.20m，床面からの深さは 0.21mをはかる。

出土遺物（第８図 1～2）　１は内外黒色処理とヘラミガキが施される土師器高台付坏で，体部外面に刻書「||」，底部に菊花文が確認される。２は土師器甕で，体部下半～底部にかけて欠損しており，残存高 29.3 ㎝，口径 24.0 ㎝をはかる。器面調整は口縁部内外にヨコナデ，体部外面はヘラナデの後に縦方向のヘラケズリ，内面にはヘラナデを施す。



第５図　ＲＡ６６８竪穴建物跡

ＲＡ６６９竪穴建物跡（第６・７図）

位　　置　調査区中央南（Ｈ２－Ｂ17・18 区）　**平 面 形**　方形　**主軸方向**　－

規　　模　南西－北東 3.53m，北西－南東 3.75m　**重複関係**　ＲＥ０９４・０９６に切られる。

掘 込 面　削平　**検 出 面**　Ⅱ層上面

埋　　土　Ａ～Ｆ層に大別され，Ｃ層はさらに２層に細分される。Ａ層は人為堆積，それ以外は自然堆積である。

Ａ層－黄褐色シルト粒～小塊状を含む，灰黄褐色土と暗褐色土の混合土。ややグライ化し，少量のカーボンと多くの土師器やあかやき土器の小破片とともに溶岩質安山岩，花崗岩，礫を多量に含む。岩石には被熱したものが多く確認される。

Ｂ層－黒褐色土を主体に暗褐色土を塊状に含む混合土で，粒状のにぶい黄褐色シルトを微量含む。少量の焼土粒，多量のカーボン粒～小塊状を含む。

Ｃ層－黒褐色土を主体とする層で，C_1 層は粒状の褐色シルトとカーボンを少量含み，C_2 層は塊状の暗褐色土を多量含む。

Ｄ層－暗褐色土を主体とし，粉～粒状の黄褐色シルトを多く含む。

Ｅ層－黒色土を主体とし，粒状の暗褐色土，焼土粒，カーボン粒を少量含む。

Ｆ層－暗褐色土を主体とし，塊状のにぶい黄褐色シルトを多量含む。

壁の状態　検出面から床面までの深さは 0.14～0.19mで，外傾して立ち上がる。

床の状態　ほぼ平坦で中央に硬化面が広がる。構築土（Ｌ層）は黄褐色シルトと暗褐色土の混合土を主体とし，塊状のにぶい黄褐色シルトを僅かに含む。層厚は 0.02～0.08mである。

カ マ ド　カマドは３時期（Ⅰ～Ⅲ期）あり，平面形や残存状況，埋土の状況などから，南（Ⅲ期）→北（Ⅱ期）→北東（Ⅰ期）の順で造り替えが行われている。Ⅱ・Ⅲ期については，カマド基底部は残存せず，火床面のみ残る。

Ⅰ期のカマドは東壁北寄りに位置する。煙道平面形は不整な溝状で，火床面から煙出しに向かって緩やかに傾斜し，深くなっている。規模は東壁から煙出しの先端までの長さ 1.19m，幅 0.24～0.47m，検出面からの深さ 0.06～0.18mをはかる。カマドはにぶい黄褐色シルトに小塊状の暗褐色土と角礫を含む混合土（K_1 層）で構築し，規模は北残存部が長さ 0.25m，幅 0.26m，高さ 0.07～0.12m，南残存部が長さ 0.34m，幅 0.25m，高さ 0.06～0.09mをはかる。火床面は径 0.39～0.42mの不整円形で熱浸透層は厚さ 0.05mをはかる。カマド支脚は火床面東端に土師器小型甕を伏せて用いている。支脚内には暗褐色土粒～塊状を含む暗赤褐色土（K_2 層）が充填され，支脚を据えるための掘方埋土（K_3 層）はにぶい褐色シルトと暗褐色土の混合土である。カマド崩壊土（$J_{1\sim8}$ 層）は褐色シルト粒～塊状を含む黒褐色土及び暗褐色土である。どの層も焼土粒とカーボンを含み，J_4 層は多量の焼土粒～塊とカーボンを含む。なお，この崩壊土は煙出しから煙道，さらに火床面と床面の一部の範囲を覆っている。

Ⅱ期のカマドは北壁東寄りに構築される。煙道平面形は溝状で，火床面から煙出しに向かって緩やかに傾斜する。規模は北壁から煙出しの先端までの長さ 1.17m，幅 0.21～0.31m，検出面からの深さ 0.12～0.16mをはかる。火床面は径 0.24～0.30mの楕円形を呈し，熱浸透層は厚さ 0.05mである。カマド崩壊土（J' 層）は暗褐色土や褐色シルトを含む黒

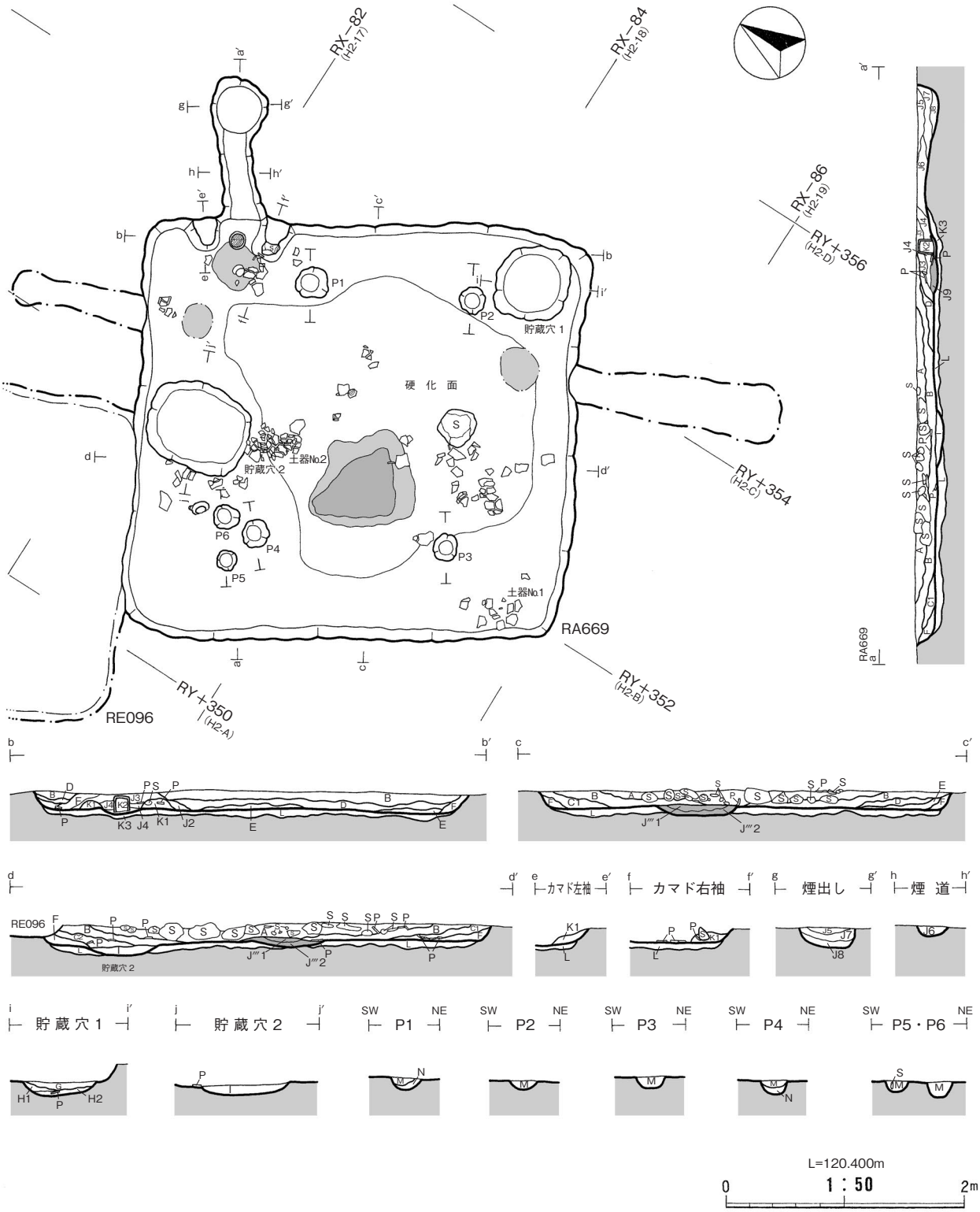
褐色土を主体とし，５層に細分される。Ｊ$'_3$層は焼土粒～塊状を多量に含み，あかやき土器・土師器破片が混入する。

Ⅲ期カマドは南壁中央寄りに位置する。煙道の平面形は煙出しに向かって幅が広くなる溝状で，火床面から徐々に深くなり，煙出し底面で最も深くなる。規模は南壁から煙出しの先端までの長さ 1.81m，幅 0.28～0.50m，検出面からの深さ 0.10～0.21mをはかる。火床面は径 0.33～0.37mの楕円形で，熱浸透層は厚さ 0.02mである。カマド崩壊土（Ｊ$''$層）は焼土とカーボンを混入し，褐色～にぶい黄褐色シルトを粒～小塊状にやや多く含む黒褐色土である。８層に細分され，Ｊ$''_3$層は焼土粒～塊状とカーボンを多量に含む。

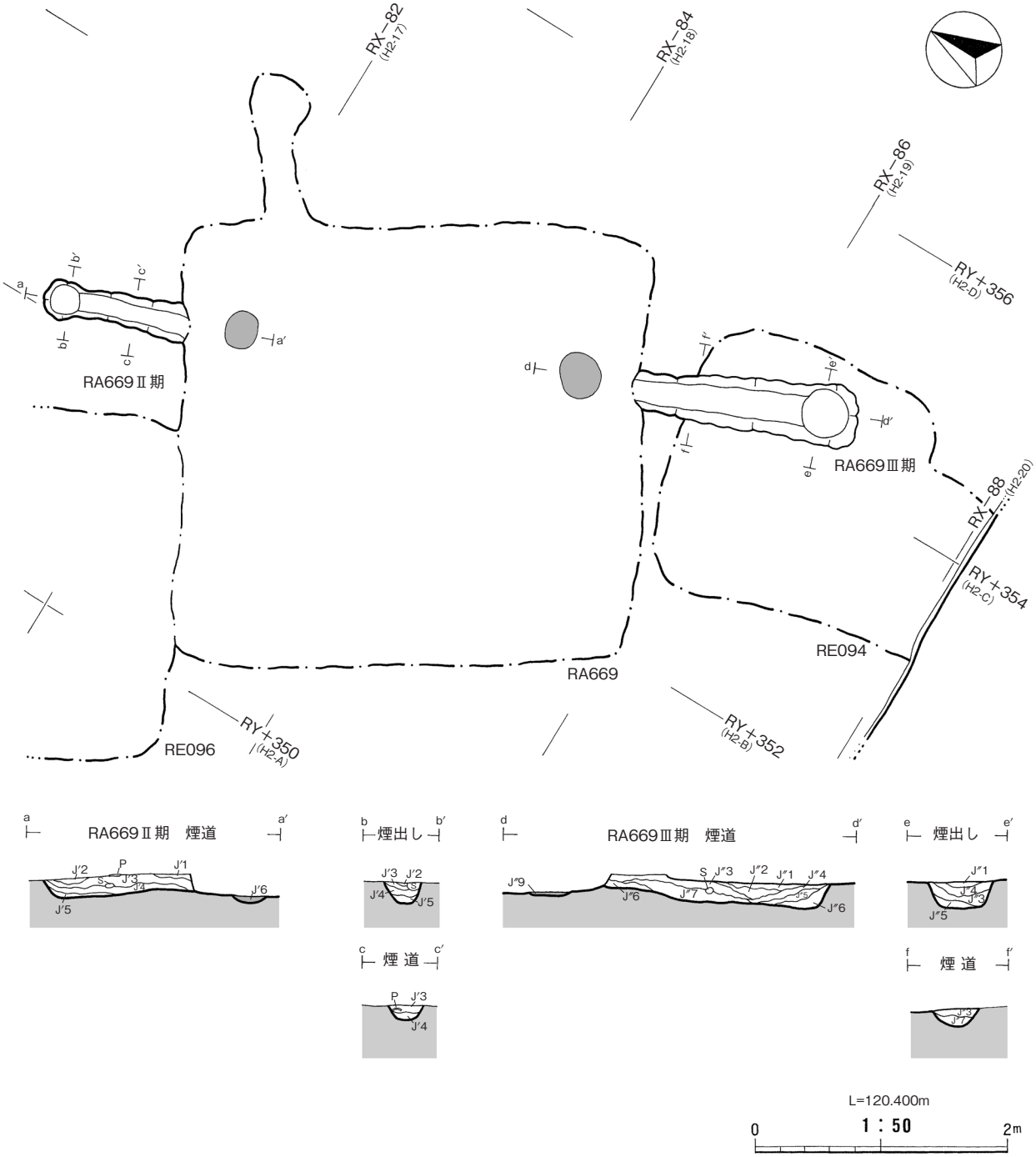
貯 蔵 穴　貯蔵穴が２基確認されている。Ⅲ期のカマドに伴う貯蔵穴１は南壁東隅にあり，埋土はＧ・Ｈ層に大別され，Ｈ層はさらに２層に細分される。Ｇ層は暗褐色土ににぶい黄褐色シルトを含み，Ｈ層は黒褐色シルトを主体に褐～黄褐色シルト粒状を含むもので，下層ほどシルトの割合が少ない。土師器破片と多量の焼土粒，カーボン粒が混入する。平面形は不整な楕円形で，規模は径 0.60～0.63m，床面からの深さ 0.08～0.10mをはかる。Ⅱ期のカマドに伴う貯蔵穴２は北壁中央近くに位置し，埋土（Ｉ層）はにぶい黄褐色シルト塊状をやや多く含む黒褐色土である。土師器，あかやき土器破片と焼土粒～塊，多量のカーボン粒が混入する。平面形は隅丸方形で，規模は長軸 0.85m，短軸 0.70m，床面からの深さ 0.07mである。

柱　　穴　その他ピットを床面上に６口検出しており，主柱穴はＰ１～４である。柱痕跡は認められず，埋土はM層が黒褐色土に褐色シルト粒状を少量含み，Ｎ層は暗褐色土を主体に黄褐色シルト粒～小塊状に含む。各ピットの規模・深さは，Ｐ１－径 0.24～0.28m，深さ 0.10m，Ｐ２－径 0.20～0.23m，深さ 0.08m，Ｐ３－径 0.19～0.23m，深さ 0.10m，Ｐ４－径 0.22～0.25m，深さ 0.12m，Ｐ５－径 0.17m，深さ 0.10m，Ｐ６－径 0.18～0.21m，深さ 0.13mである。床面の中央西で，長軸 0.90m，短軸 0.70mの不整な楕円形を呈する熱浸透層（Ｊ$'''$層）を検出した。熱浸透層は厚さ 0.09mで，その中央部は周辺と比較して，強い被熱を受けて橙色を呈し堅く焼き締まっている。

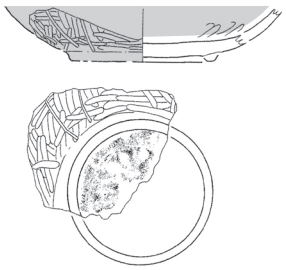
出土遺物（第８・９図 3～12）　３～５は土師器の坏で，いずれも内面が黒色処理され，内面全体にヘラミガキを施す。３は底部回転糸切後に底面と一部体部下端にヘラナデが施される。内面の体部下半～底面にかけて黒色処理が失われている。４は底部回転ヘラ切で，体部下端にかけて手持ちヘラケズリを施す。３と同様に黒色処理が失われている。６は底部回転糸切後，底面周縁の一部にヘラナデ再調整が施されるあかやき土器坏である。７は土師器高台付坏で体部を欠損している。内面は黒色処理され，ヘラミガキが施される。底面は磨滅しているが菊花文の一部が確認できる。８は須恵器大甕で体部～底部を欠損している。器面調整は体部の内外面に平行タタキを施す。９・10 は土師器甕である。９は器形の傾きが大きく，器高 31.9 ㎝，口径 20.5 ㎝，底径 9.8 ㎝をはかり，内面に巻上げ痕が残る。器面調整は口縁部の外面にヨコナデの後にヘラナデ，体部外面は縦方向のヘラナデ，内面はヘラナデ調整を施す。底面にはヘラナデを施すが，木葉痕の一部が残存する。10 は体部下半～底部を欠損しており，残存高 24.3 ㎝，口径 23.9 ㎝をはかる。器面調整は内外ともヘラナデを施す。11 は土師器小型甕でＩ期カマドの支脚に転用されたもので，外面上部に煤状



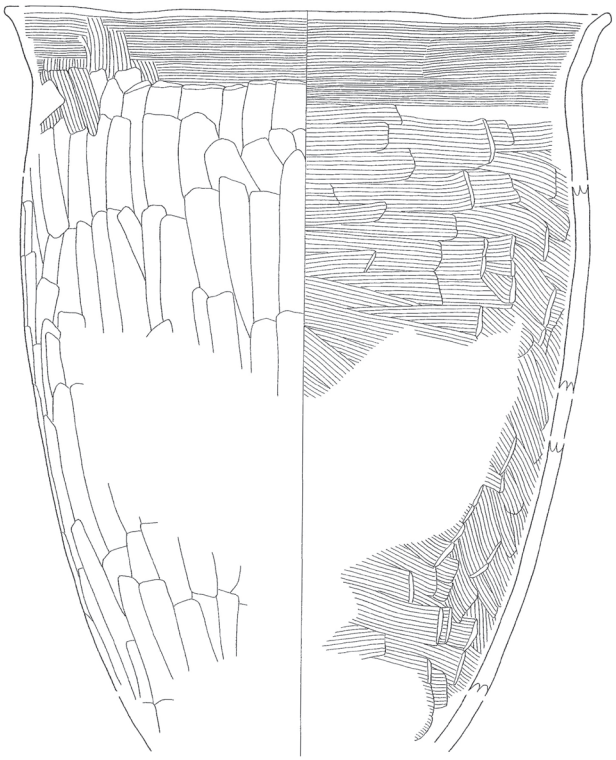
第6図　ＲＡ６６９竪穴建物跡（Ｉ期）



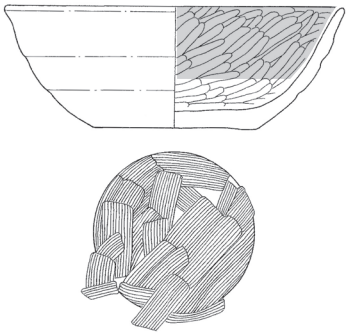
第７図　ＲＡ６６９竪穴建物跡（Ⅱ・Ⅲ期）



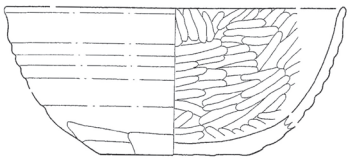
1　土師器高台付坏　RA668-G2-W9-A 層
刻書「｜｜」



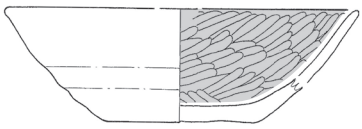
2　土師器甕　RA668-G2-W9- 床面（No.1）



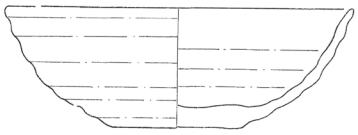
3　土師器坏　RA669-H2-B18- 床面（No.3）



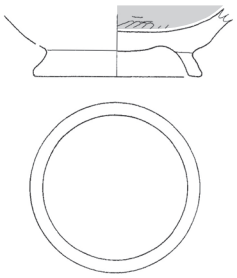
4　土師器坏　RA669-H2-B18- 床面（No.2）



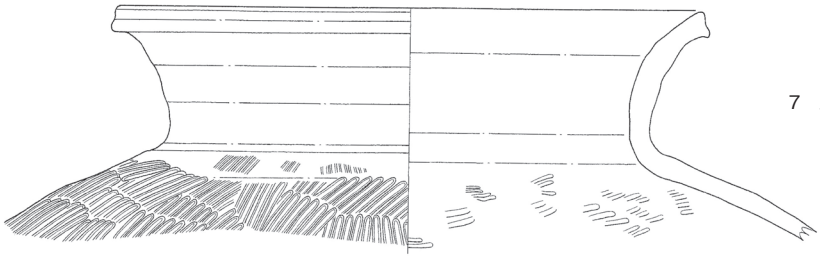
5　土師器坏　RA669-H2-B17- 床面（No.4）



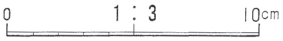
6　あかやき土器坏　RA669-H2-B17- カマド J4 層



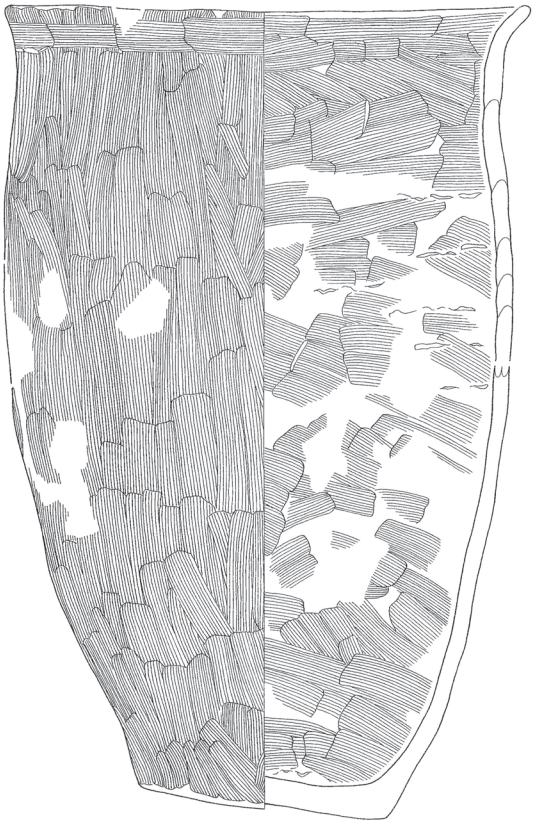
7　土師器高台付坏　RA669-H2-B17-J 層（No.8）



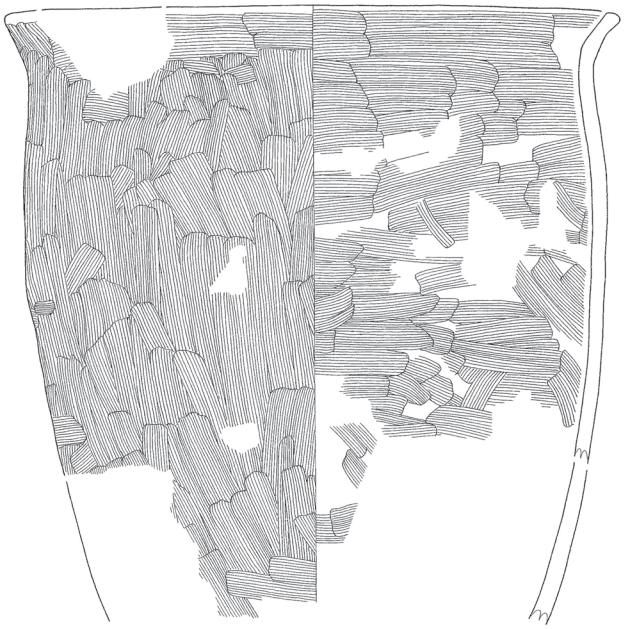
8　須恵器大甕　RA669-H2-B18-A 層



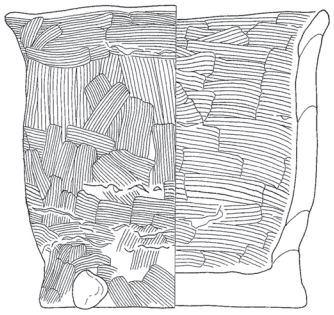
第８図　ＲＡ６６８・６６９竪穴建物跡出土土器（1）



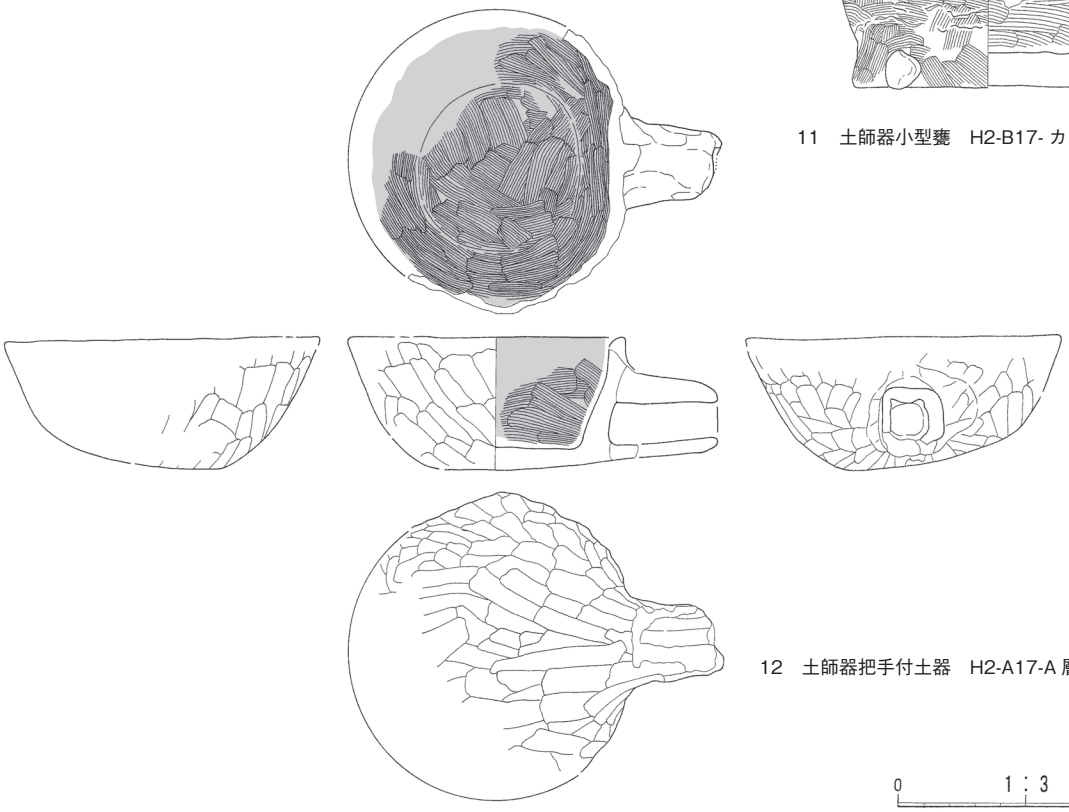
9　土師器甕　H2-A18- 床面（№1）



10　土師器甕　H2-B17- 床面（№2）



11　土師器小型甕　H2-B17- カマド支脚 J 層



12　土師器把手付土器　H2-A17-A 層

0　1：3　10cm

第９図　ＲＡ６６９竪穴建物跡出土土器（２）

炭化物が付着している。器高 11.6 ㎝，口径 12.3 ㎝，底径 10.4 ㎝をはかり，内外面に巻上げ痕が残る。体部外面の下端に径 1.5 ㎝の粘土粒が付着し，底面には木葉痕が残る。器面調整は内外ともヘラナデを施す。12 は土師器把手付土器で約１/３が残存し，内面が黒色処理されている。器高 5.2 ㎝，口径 11.0 ㎝をはかり，底部は丸底風で胎土に砂粒を多く含む。器面調整は外面に小単位のヘラケズリ，内面はヘラナデ調整を施す。体部下端付近に付く把手部は一部を欠損しているが，中空で断面形は円形である。把手基部から先端までの長さ 3.7 ㎝，径 3.3 ㎝をはかる。把手部の外面調整はナデとヘラケズリが施される。また図示していないが,人為堆積のＡ層から溶岩質安山岩製の砥石破片が４点出土している。

ＲＢ１４１掘立柱建物跡（第 10 図）

位　　置　調査区中央（Ｇ２－Ｙ14～16 区）　**平 面 形**　桁行３間×梁行２間の南北棟

棟 方 向　N29°Ｗ　**重複関係**　ＲＥ０９６に切られる。

規　　模　桁行３間（総長 5.50m・18 尺），梁行２間（総長 4.10m・13 尺５寸）

掘 込 面　削平　**検 出 面**　Ⅱ層及びⅢ層上面

柱間寸法　Ｐ１～10 の 10 口で構成される。梁間柱間はＰ１・Ｐ２間－2.10m（７尺），Ｐ２・Ｐ３間－2.00m（６尺６寸），Ｐ６・Ｐ７間－2.00m（６尺６寸），Ｐ７・Ｐ８間－2.10m（７尺）である。桁行東側柱筋と西側柱筋はともに総長 5.50m（18 尺）で桁行柱間はＰ３・Ｐ４間－2.20m（７尺３寸），Ｐ４・Ｐ５間－1.80m（６尺），Ｐ５・Ｐ６間－1.50m（５尺），Ｐ８・Ｐ９間－1.90m（６尺３寸），Ｐ９・Ｐ10 間－1.80m（６尺），Ｐ10・Ｐ１間－1.80m（６尺）である。

柱　　穴　明確な柱痕跡を確認できたのは，Ｐ１・２・７・９・10 である。柱痕跡径は 0.20～0.25m，掘方径は 0.40～0.75mをはかる。柱痕跡埋土は黒～黒褐色土を主体に暗褐色土を少量含む。掘方埋土は褐～黄褐色シルトを主体に塊状の黒褐色土を含み，しまりがある。各柱穴の規模・深さはＰ１－径 0.52～0.56m，深さ 0.22m，Ｐ２－径 0.54～0.60m，深さ 0.23m，Ｐ３－径 0.46m，深さ 0.21m，Ｐ４－径 0.40～0.46m，深さ 0.13m，Ｐ５－径 0.50～0.56m，深さ 0.15m，Ｐ６－径 0.52～0.55m，深さ 0.17m，Ｐ７－径 0.54～0.59m，深さ 0.18m，Ｐ８－径 0.60～0.76m，深さ 0.21m，Ｐ９－径 0.45～0.48m，深さ 0.31m，Ｐ10－径 0.55～0.60m，深さ 0.20mである。平面形の多くが不整円形を呈し，Ｐ８は不整楕円形を呈する。

出土遺物　図示していないが，Ｐ１から須恵器坏，Ｐ５から土師器坏，Ｐ９から土師器坏及び甕がそれぞれ小破片で出土している。

ＲＥ０９４竪穴跡（第 11 図）

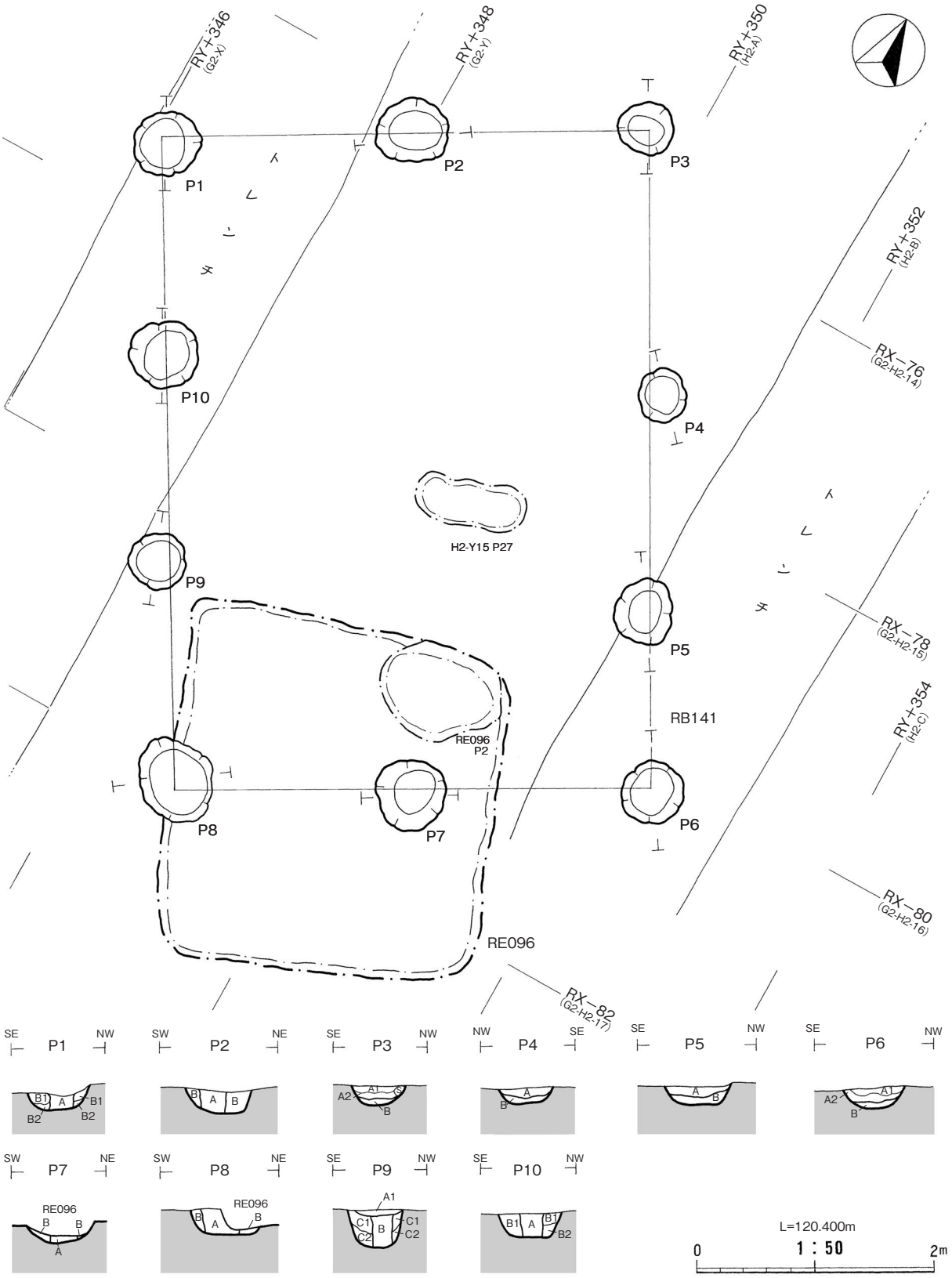
位　　置　調査区南（Ｈ２－Ｂ・Ｃ19 区）　**平 面 形**　南側に張出しがある方形（調査区外）

規　　模　南－北 2.50m以上（調査区），東－西 2.13m　**重複関係**　ＲＡ６６９を切る。

掘 込 面　削平　**検 出 面**　Ⅱ層上面

埋　　土　自然堆積でＡ・Ｂ層に大別される。

Ａ層－暗褐色土を主体とし，粒～小塊状のにぶい黄褐色シルトを少量含む。



第10図　ＲＢ１４１掘立柱建物跡

Ｂ層－黒褐色土を主体とし，褐色シルト塊状を多く含む。また焼土粒を少量含む。

壁の状態　検出面から床面までの深さは 0.05～0.08ｍで，外傾して立ち上がる。

床の状態　ほぼ平坦で，構築土は確認されない。調査区壁近くの張出し部分の床面から礫 2 点が確認された。使用痕等はなく，自然石である。

出土遺物　Ａ層から須恵器坏，あかやき土器坏，土師器坏及び甕の小破片が出土している。

ＲＥ０９５竪穴跡（第 11 図）

位　　置　調査区南（Ｈ２－Ｃ11 区）　**平 面 形**　方形

規　　模　南西－北東 2.63ｍ，北西－南東 2.20ｍ　**重複関係**　なし

掘 込 面　削平　**検 出 面**　Ⅱ層上面

埋　　土　自然堆積でＡ・Ｂ層に大別され，Ａ層はさらに２層に細分される。

Ａ層－黒褐色土を主体に黄褐色シルトを粒～塊状に含む層で，焼土粒とカーボンを多く含む。A_2層は黄褐色シルトの割合が多い。

Ｂ層－褐色シルトを主体に黒褐色土を粒～小塊状に含む。またカーボン粒状を微量含む。

壁の状態　検出面から床面までの深さは 0.05～0.09ｍで，外傾して立ち上がる。

床の状態　床面はほぼ平坦で，構築土（Ｌ層）は黄褐色シルトと暗褐色土の混合土を主体とし，粒～塊状のにぶい黄褐色シルトを少量含む。層厚は 0.06～0.11ｍである。

柱　　穴　ピットを床面上に５口検出しており，主柱穴はＰ１～４である。柱痕跡は認められず，埋土（Ｃ層）は黒褐色土を主体に暗褐色土粒状を少量含み，いずれもカーボン粒状を少量含む。Ｐ６は不整な楕円形で，埋土はＤ・Ｅ層に分かれ，Ｄ層は黒褐色土を主体に暗褐色土塊状とカーボン粒を多量に含む。また，土師器甕体部の小破片を多く含む。Ｅ層は暗褐色土を主体に黄褐色シルトを小塊状に含む。各ピットの規模・深さは，Ｐ１－径 0.15～0.19ｍ，深さ 0.09ｍ，Ｐ２－径 0.25～0.32ｍ，深さ 0.06ｍ，Ｐ３－径 0.22～0.25ｍ，深さ 0.08ｍ，Ｐ４－径 0.23ｍ，深さ 0.06ｍ，Ｐ５－径 0.82～1.00ｍ，深さ 0.06ｍである。

出土遺物　$A_{1.2}$層から須恵器坏及び甕，あかやき土器坏，土師器坏及び甕の磨滅した小破片が多数出土している。

ＲＥ０９６竪穴跡（第 12 図）

位　　置　調査区中央南（Ｈ２－Ａ16 区）　**平 面 形**　方形

規　　模　南西－北東 2.27ｍ，北西－南東 2.99ｍ　**重複関係**　ＲＡ６６９，ＲＢ１４１を切る。

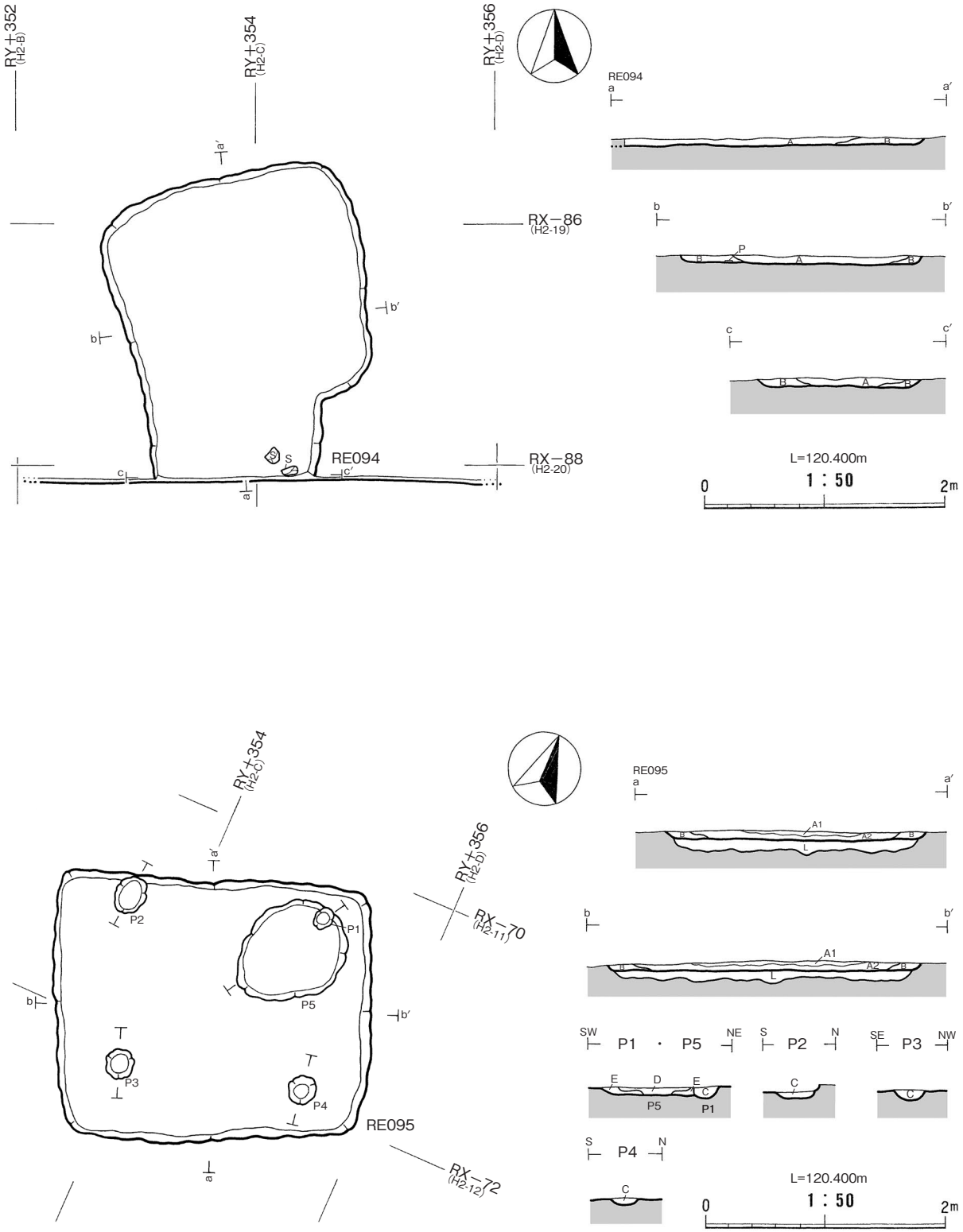
掘 込 面　削平　**検 出 面**　Ⅱ層上面

埋　　土　自然堆積でＡ～Ｄ層に大別される。

Ａ層－粒状のにぶい黄褐色シルトを少量含む，黒褐色土と暗褐色土の混合土。粒～小塊状の焼土・カーボンを少量含む。

Ｂ層－黒褐色土を主体とし，粒～塊状のにぶい黄褐色シルトを多く含む。焼土粒，白色粘土小塊を含む。

Ｃ層－にぶい黄褐色シルトを主体とし，小塊状の黒褐色土を多く含む。カーボン粒少量含む。



第11図　ＲＥ０９４・０９５竪穴跡

Ｄ層－褐色シルトを主体とし，粒状の黒褐色土を少し含む。

壁の状態　検出面から床面までの深さは 0.05～0.13ｍで，外傾して立ち上がる。

床の状態　床面はほぼ平坦で，東側に硬化面が広がる。構築土（Ｌ層）はにぶい黄褐色シルトと黒褐色土の混合土を主体とし，塊状の褐色シルトを僅かに含む。層厚は 0.02～0.11ｍである。

柱　　穴　ピットを床面上に６口検出している。明確な主柱穴は不明であるが，Ｐ１・４・６が該当すると思われる。柱痕跡は認められず，埋土はＥ～Ｇ層に大別される。Ｅ層は黒褐色土を主体に暗褐色土塊状を少量含む。また，土師器甕体部の小破片を多く含む。Ｆ層は黒褐色土を主体に小塊状の黄褐色シルトを微量含む。Ｇ層は褐色シルトを主体に暗褐色土を塊状に含む。各ピットの規模・深さは，Ｐ１－径 0.26ｍ，深さ 0.08ｍ，Ｐ２－径 0.82～1.07ｍ，深さ 0.10ｍ，Ｐ３－径 0.20～0.22ｍ，深さ 0.11ｍ，Ｐ４－径 0.23～0.26ｍ，深さ 0.08ｍ，Ｐ５－径 0.22～0.29ｍ，深さ 0.10ｍ，Ｐ６－径 0.25～0.27ｍ，深さ 0.10ｍである。

出土遺物（第 12 図 1～6）　１・２は底部回転糸切無調整，内面が黒色処理され，ヘラミガキを施す土師器坏である。胎土に雲母が混入している。２は口縁部～体部上半を欠損しているが，底面に「⋊」と刻書される。３は須恵器坏で，底部は回転糸切無調整である。４はあかやき土器坏で，底部は回転糸切後，底面周縁の一部にヘラナデ再調整を施す。５はあかやき土器高台付坏で，１/３が残存し全体に磨滅している。底面に菊花文の痕跡が認められる。６は須恵器壷で，体部～底部を欠損する。その他，図示していないが砂岩製の砥石と鉄滓がＢ層から出土している。

ＲＤ２１７９土坑（第 13 図）

位　　置　調査区北東（Ｈ２－Ｄ12・13 区）　**平 面 形**　不整方形

規　　模　長軸－上端 1.68ｍ，下端 1.55ｍ，短軸－上端 1.32ｍ，下端 1.17ｍ　**重複関係**　なし

掘 込 面　削平　**検 出 面**　Ⅱ層上面

埋　　土　自然堆積でＡ・Ｂ層に大別される。

Ａ層－黒褐色土を主体とし，粒～小塊状の暗褐色土を少量含む。粒～小塊状の焼土，カーボン粒を多量含む。

Ｂ層－暗褐色土を主体とし，粒～塊状の黒褐色土を少し含む。

壁の状態　検出面から底面までの深さは 0.08～0.10ｍで，外傾して立ち上がる。

底の状態　ほぼ平坦である。

出土遺物　Ａ・Ｂ層から須恵器坏，あかやき土器坏及び甕，土師器坏及び甕の磨滅した小破片が出土している。出土遺物の大半はＡ層で，Ｂ層は少量である。

ＲＤ２１８０土坑（第 13 図）

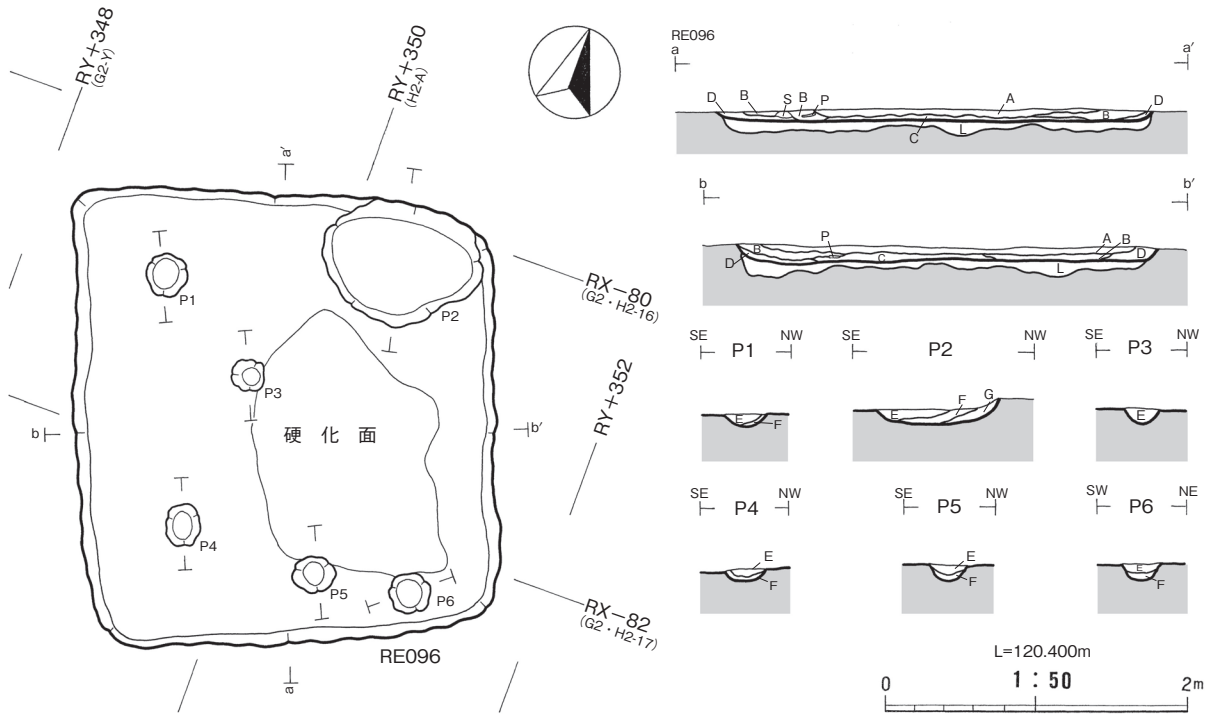
位　　置　調査区南東（Ｈ２－Ｄ18 区）　**平 面 形**　方形

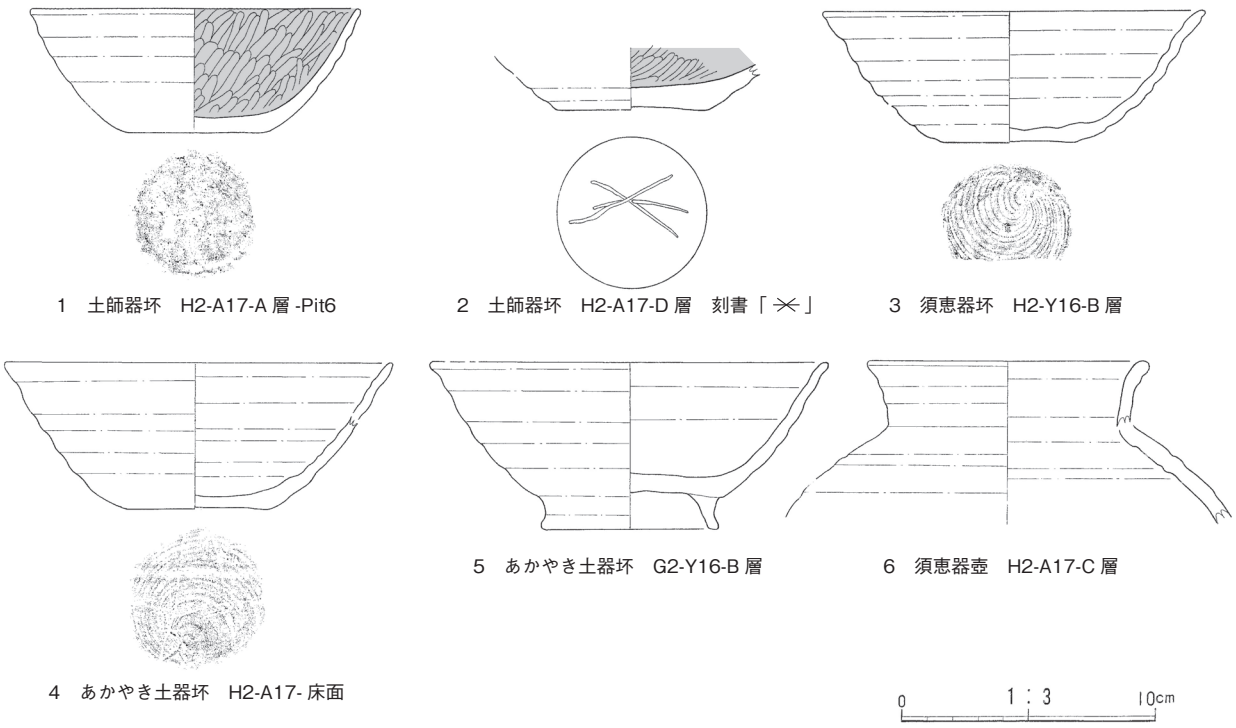
規　　模　長軸－上端 1.50ｍ，下端 1.38ｍ，短軸－上端 1.32ｍ，下端 1.15ｍ　**重複関係**　なし

掘 込 面　削平　**検 出 面**　Ⅱ層上面

埋　　土　自然堆積でＡ～Ｄ層に大別される。

Ａ層－暗褐色土を主体とし，粒状のにぶい黄褐色シルトを多量含む。粒～小塊状の焼土





第12図 ＲＥ０９６竪穴跡，出土土器

を少量，カーボン粒を多量含む。

Ｂ層－黒褐色土を主体とし，粒～塊状の暗褐色土とカーボン粒を少量含む。

Ｃ層－黒色土を主体とし，塊状の褐色シルトを多く含む。また粒～小塊状の焼土，カーボンを多量含む。

Ｄ層－褐色シルトを主体とし，小塊状の暗褐色土をわずかに含む。

壁の状態　検出面から底面までの深さは 0.10～0.27ｍで，外傾して立ち上がる。

底の状態　ほぼ平坦であるが，東壁際に小ピット状のくぼみがあり，西隅壁際の底面には白色粘土塊が確認される。

出土遺物（第 14 図 1）　１は土師器甕で体部下半～底部を欠損しており，残存高 27.4 ㎝，口径 20.8 ㎝をはかり，内外面に巻上げ痕が残る。器面調整は口縁部内外にヨコナデ，体部外面はヘラミガキ，内面にはヘラナデを施す。

ＲＤ２１８２土坑（第 13 図）

位　　置　調査区西（Ｇ２－Ｔ13 区）　**平 面 形**　不整方形

規　　模　上端－1.40～1.50ｍ，下端－1.25～1.42ｍ　**重複関係**　なし

掘 込 面　削平　**検 出 面**　Ⅱ層上面

埋　　土　自然堆積でＡ～Ｃ層に大別される。

Ａ層－黒褐色土を主体とし，粒状の暗褐色土を多く含む。小塊状の焼土を多量，カーボン粒を少量含む。

Ｂ層－粒状のにぶい黄褐色シルトをわずかに含む，黒色土と黒褐色土の混合土。少量の焼土粒，多量のカーボン粒～塊状を含む。

Ｃ層－黄褐色シルトを主体とし，塊状の黒褐色土を多く含む。

壁の状態　検出面から底面までの深さは 0.07～0.16ｍで，外傾して立ち上がる。

底の状態　ほぼ平坦で，南西側にピット状のくぼみがあり，赤褐色を呈する焼土（Ｊ層）が認められる。Ｊ層は２層に細分され，$Ｊ_2$層より$Ｊ_1$層の方が堅くしまりがある。

出土遺物（第 14 図 2）　２は土師器小型甕である。器高 14.1 ㎝，口径 14.7 ㎝，底径 8.2 ㎝をはかり，内外面に巻上げ痕，底面には木葉痕が残る。器面調整は口縁部外面にヘラナデ，体部外面はヘラナデの後にヘラミガキ，内面はヘラナデ調整を施す。

ＲＧ６１４溝跡（第 13 図）

位　　置　調査区北西（Ｇ２－Ｖ10・11 区）　**平 面 形**　ほぼ直線で南北にのびる。

規　　模　総延長 2.00ｍ，上端幅－0.21～0.28ｍ，下端幅－0.13～0.21ｍ　**重複関係**　なし

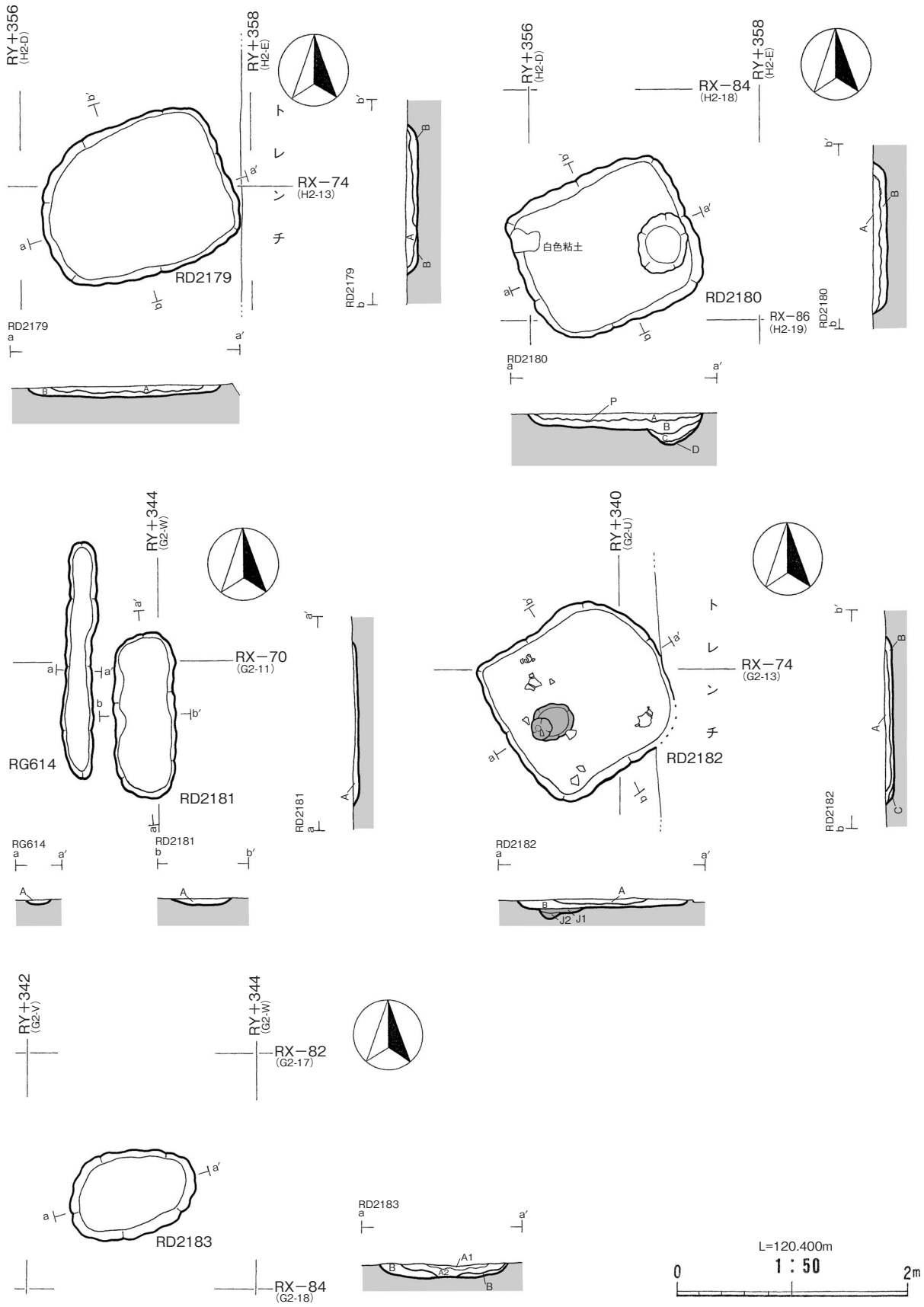
掘 込 面　削平　**検 出 面**　Ⅱ層上面

埋　　土　自然堆積で，暗褐色土を主体とし，褐色シルトを小塊状に多く含む単層である。

壁の状態　検出面から底面までの深さは 0.04ｍで，外傾して立ち上がる。

底の状態　ほぼ平坦である。

出土遺物　磨滅した土師器坏の小破片が出土している。



第13図　ＲＤ２１７９～２１８３土坑，ＲＧ６１４溝跡

（２）　古代以降の遺構・遺物

ＲＤ２１８１土坑（第 13 図）

位　　置　調査区北西（Ｇ２－Ｖ11 区）　　**平 面 形**　不整長方形

規　　模　長軸－上端 1.37m，下端 1.29m，短軸－上端 0.54m，下端 0.39m　　**重複関係**　なし

掘 込 面　削平　　**検 出 面**　Ⅱ層上面

埋　　土　自然堆積で，黒色土を主体とし，黒褐色土を塊状に多く含む単層である。

壁の状態　検出面から底面までの深さは 0.04～0.06mで，緩やかに外傾して立ち上がる。

底の状態　ほぼ平坦である。

出土遺物　なし

ＲＤ２１８３土坑（第 13 図）

位　　置　調査区南西（Ｇ２－Ｖ17 区）　　**平 面 形**　不整楕円形

規　　模　長軸－上端 1.11m，下端 0.96m，短軸－上端 0.76m，下端 0.60m　　**重複関係**　なし

掘 込 面　削平　　**検 出 面**　Ⅱ層上面

埋　　土　自然堆積で，Ａ・Ｂ層に大別され，Ａ層はさらに２層に細分される。

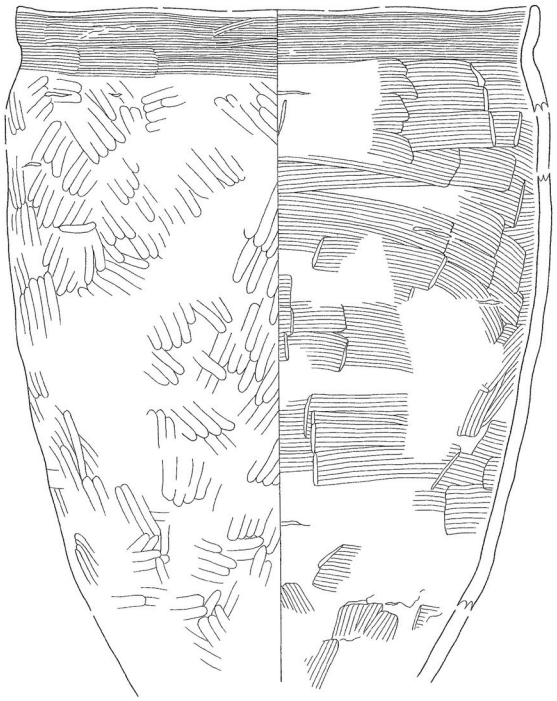
Ａ層－黒色土を主体に黒褐色土を含む層で，A_1層は粒状の黒褐色土を多量，A_2層は塊状の黒褐色土を少量含む。

Ｂ層－粒状の黒色土をわずかに含む，暗褐色土と褐色シルトの混合土。

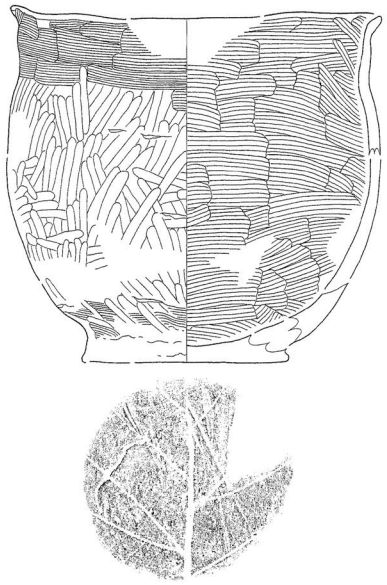
壁の状態　検出面から底面までの深さは 0.09～0.11mで，外傾して立ち上がる。

底の状態　ほぼ平坦である。

出土遺物　なし



1　土師器甕　RD2180-H2-D18-B 層



2　土師器小型甕　RD2182-G2-T13-B 層

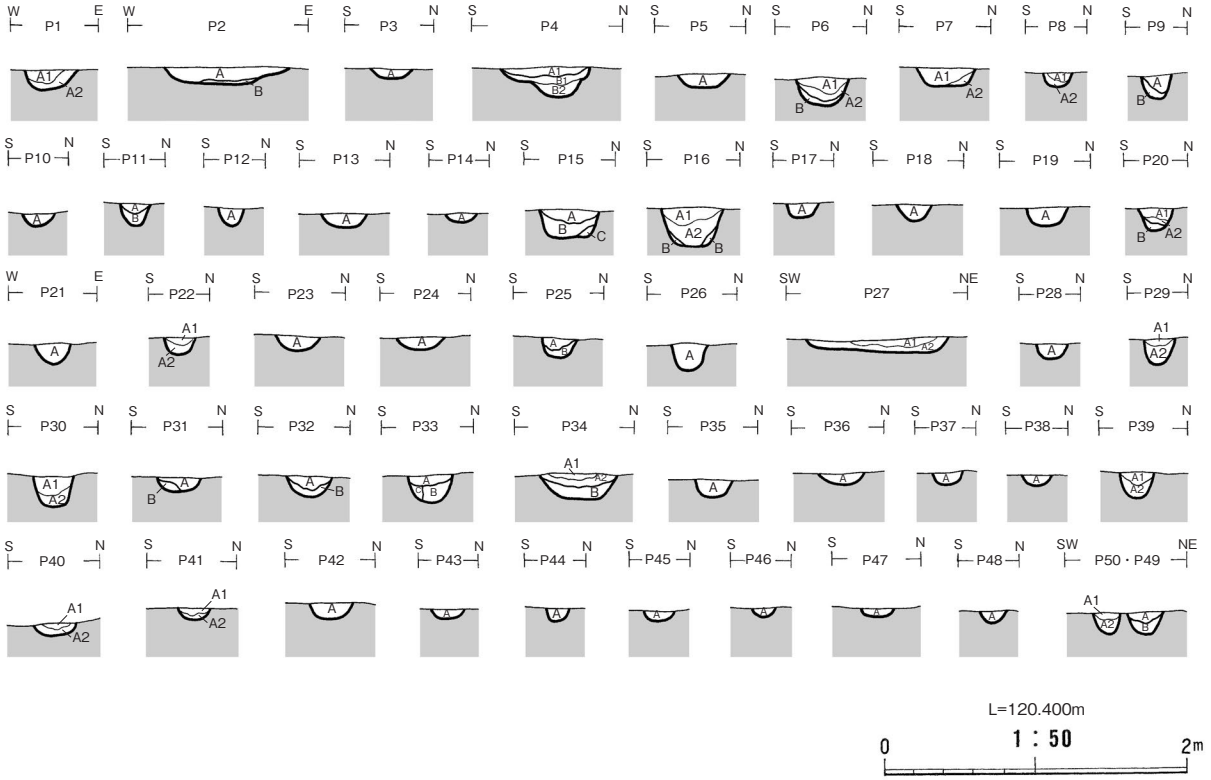
0　1：3　10cm

第14図　ＲＤ２１８０・２１８２土坑出土土器

ピット群（第 15 図）

調査区のほぼ全域から 50 口のピット（Ｐ１～50）が検出されている。検出面はＰ17・44・45 のみⅢ層上面であり，その他はⅡ層上面である。埋土は黒褐色土が主体となるものが多い。柱痕跡が認められるピットは調査区南で検出したＰ33 のみである。またピットから出土した遺物は須恵器，あかやき土器，土師器の小破片で磨滅しているものが多い。各ピットの検出面からの深さは以下のとおりである。

Ｐ１－0.14m・Ｐ２－0.12m・Ｐ３－0.07m・Ｐ４－0.21m・Ｐ５—0.10m・Ｐ６－0.20m・Ｐ７－0.12m・Ｐ８－0.10m・Ｐ９－0.16m・Ｐ10－0.09m・Ｐ11－0.16m・Ｐ12－0.12m・Ｐ13－0.10m・Ｐ14－0.07m・Ｐ15－0.20m・Ｐ16－0.26m・Ｐ17－0.09m・Ｐ18－0.11m・Ｐ19－0.13m・Ｐ20－0.16m・Ｐ21－0.15m・Ｐ22－0.12m・Ｐ23－0.10m・Ｐ24－0.09m・Ｐ25－0.13m・Ｐ26－0.19m・Ｐ27－0.11m・Ｐ28－0.11m・Ｐ29－0.18m・Ｐ30－0.20m・Ｐ31－0.10m・Ｐ32－0.14m・Ｐ33－0.19m・Ｐ34－0.18m・Ｐ35－0.12m・Ｐ36－0.08m・Ｐ37－0.08m・Ｐ38－0.08m・Ｐ39－0.18m・Ｐ40－0.09m・Ｐ41－0.08m・Ｐ42－0.11m・Ｐ43－0.07m・Ｐ44－0.09m・Ｐ45－0.07m・Ｐ46－0.06m・Ｐ47－0.06m・Ｐ48－0.08m・Ｐ49－0.15m・Ｐ50－0.14m



第15図　ピット土層断面

Ⅲ　調査のまとめ

台太郎遺跡第 77 次調査の結果，平安時代（９世紀後半～10 世紀前半）の集落域が確認された。ここでは検出した平安時代の遺構･遺物の概要についてまとめることとしたい。

遺　　構　検出した平安時代の遺構群について，大半の遺構が真北から西方向に概ね 25～30°傾いており，遺跡南東部の平安時代の遺構に限定するとほぼ同様な傾きが確認できる。時代が下るが 77 次調査区の西には，12 世紀後半の区画施設が存在し同様の傾きを持つ。遺跡中央部には同じ傾きで南北に縦断する平安時代の大溝も存在する。また本調査区西を南東から北西に走る市道は江戸時代の絵図にも描かれ，その道筋は現在とほぼ変わりがない。これらの傾きは遺跡の立地や遺構が構築される地形とも関係しているが，それ以外に何らかの規則性に基づいていると考えられ，未調査であるが，市道の下には北西向きの傾きを持つ溝跡などの区画施設が存在する可能性がある。その他，竪穴跡と土坑の配置を見ると，竪穴跡の南東に土坑が配置されている。ＲＥ095 竪穴跡とＲＤ2179 土坑，ＲＥ096 竪穴跡とＲＤ2180 土坑，本調査では検出していないが第 71 次調査（試掘）でＲＤ2182 土坑の西に同様の平面形と傾きがある遺構を確認している。竪穴跡や土坑の用途・性格は不明な点が多いが，今回の調査に限定すれば，竪穴跡と土坑がセットとして機能した可能性がある。

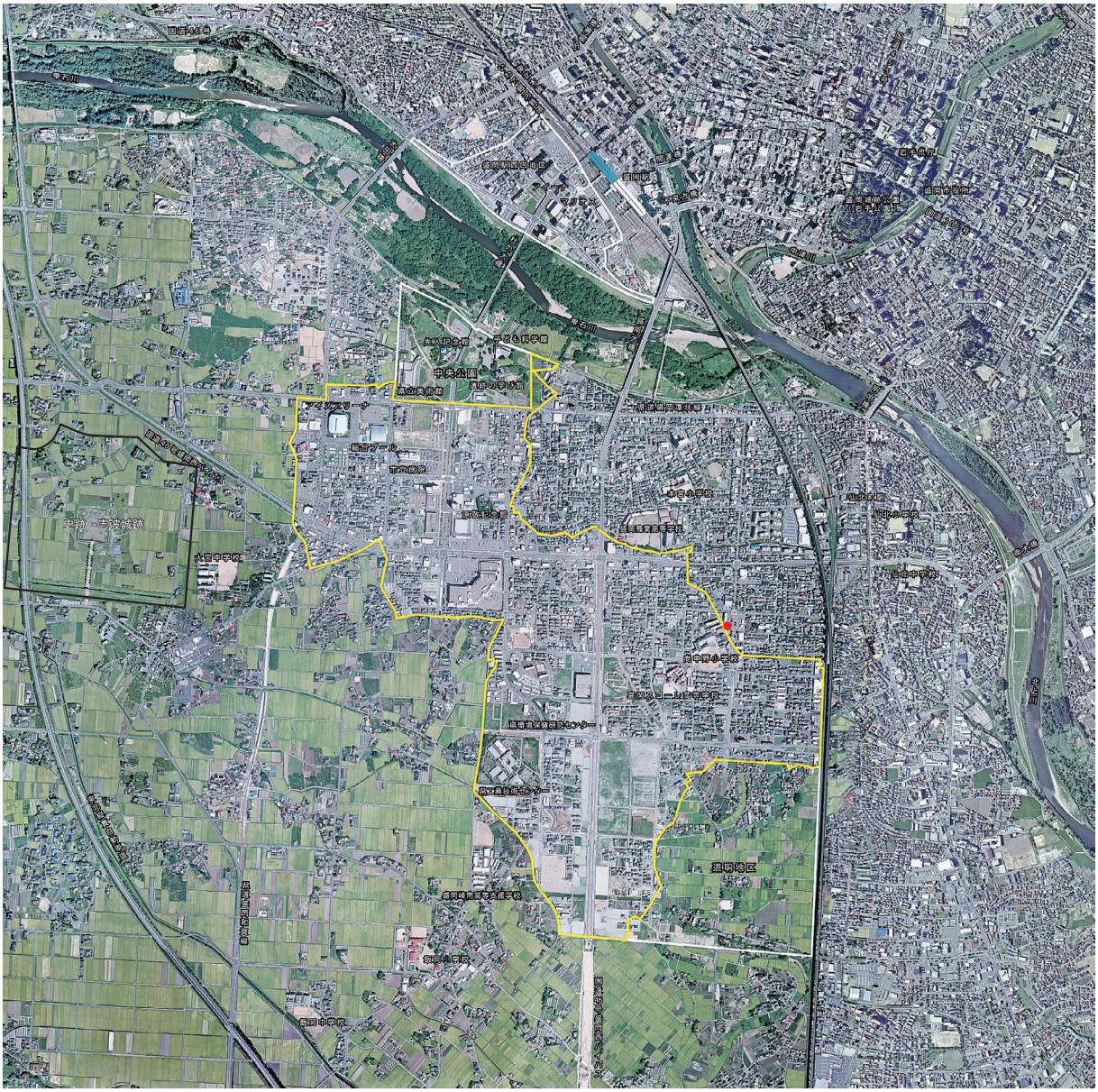
出土遺物　これまでに遺跡東部の竪穴建物跡などから出土した遺物は，９世紀後半～10 世紀に帰属するものが主体を占める。今回の調査で検出された遺構に出土遺物から年代を与えていくと，ＲＡ668 竪穴建物跡は 10 世紀前葉，ＲＡ669 竪穴建物跡は９世紀後葉，ＲＥ096 竪穴跡は９世紀後葉，ＲＤ2180・2182 土坑は９世紀後半である。またＲＢ141 掘立柱建物跡，ＲＥ094・095 竪穴跡，ＲＤ2179 土坑，ＲＧ614 溝跡は出土遺物が少ないものの，器種構成や特徴から概ね９世紀後半と考えられる。

把手付土器　ＲＡ669 竪穴建物跡出土の土師器把手付土器は，９世紀後葉に構築された建物跡の廃絶後，その窪みとなったところに，被熱した礫とともに廃棄された。この土器は北海道を中心とする（東北北部の一部を含む）擦文文化の影響を受けた土器で，東北地方では青森県，秋田県の防御性集落での出土事例が多く，10 世紀後半～11 世紀前半の年代が与えられている。本調査での出土資料も同様の年代が想定される。県内では駒焼場遺跡（二戸市），小森林館跡（花巻市：旧石鳥谷町）から出土事例があるのみで，２遺跡とも把手部が平安時代の竪穴建物跡や大溝跡から出土している。本調査で出土した把手付土器は，口縁部～体部，把手部を一部欠損しているが，器形がわかる資料である。他県の出土資料と比較すると，把手部は小型甕や鉢の体部上半～中位に取り付けられるのが一般的であるが，本遺跡出土の資料は体部下端付近で取付位置が異なっている。この差異は青森・秋田両県や岩手県北部からの搬入品ではなく，在地で製作した模倣品と捉えられる。また出土事例の多くは防御性集落で，一般集落では極めて少ない。この 2 点が他地域の出土例と異なり，その要因は推測の域を出ない。10～11 世紀の当地域と東北北部の擦文文化の影響を受けた地域との交流を考える上で重要な資料であり，今後の資料の増加と蓄積によって明らかになることを期待する。

第２表　台太郎遺跡第77次調査出土土器観察表

					形態		出土		寸法(cm)※完形･復元のみ						底部切離等	器面調整		墨書等･特徴
図	番号	写真図版	遺構名	台帳No.	区分	器種	平面位置	層位	器高	口径	体径	底径	坏：口径/底径 甕：口径/体径	口径/器高		外面	内面	
8	1	13	RA668	17	土師器	高台付坏	G2-W9	A	2.1	—	—	5.8	／	／	菊花文	ヘラミガキ,黒色処理	ヘラミガキ,黒色処理	刻書「||」,胎土に雲母混じる,内面摩滅
8	2	12	RA668	1	土師器	甕	G2-W9	床面	〔29.3〕	24.0	22.8	—	1.1	／	欠損	口縁部ナデ,体部ヘラナデ+ヘラケズリ	口縁部ナデ,体部ヘラナデ	
8	3	11	RA669	7	土師器	坏	No.3,H2-B18	床面	4.8	13.4	—	6.4	2.1	2.8	ヘラナデ再調整	—	ヘラミガキ,黒色処理(一部トビ)	胎土に雲母混じる,内外面摩滅
8	4	11	RA669	4	土師器	坏	No.2,H2-B18	床面	5.8	13.4	—	5.8	2.3	2.3	回転ヘラ切(磨滅)	体部下端ヘラケズリ再調整	ヘラミガキ,黒色トビ	胎土に雲母混じる
8	5	11	RA669	9	土師器	坏	No.4,H2-B17	床面	4.5	14.0	—	6.0	2.3	3.1	磨滅	—	ヘラミガキ,黒色処理	胎土に雲母混じる,内外面摩滅
8	6	11	RA669	27	あかやき土器	坏	カマド,H2-B17	J4	4.8	14.0	—	5.0	2.8	2.9	回転糸切後ヘラナデ再調整	—	—	内外面摩滅
8	7	-	RA669	19	土師器	高台付坏	No.8,H2-B17	J	〔2.4〕	—	—	6.6	／	／	磨滅，菊花文が一部残存	—	ヘラミガキ,黒色処理	内外面摩滅
8	8	12	RA669	94	須恵器	大甕	H2-B18	A	〔9.7〕	23.2	〔32.2〕	—	／	／	欠損	タタキ目(平行文)	タタキ目(平行文,弱い)	
9	9	12	RA669	1	土師器	甕	No.1,H2-A・B18	床面	31.9	20.5	20.1	9.8	1.0	0.6	ヘラナデ，木葉痕一部残存。傾き大きい	口縁部ヘラナデ+ナデ,体部ヘラナデ	ヘラナデ	内面巻上げ痕，内外面やや摩滅
9	10	12	RA669	12	土師器	甕	No.2,H2-A・B17	床面	〔24.3〕	23.9	23	—	—	—	欠損	ヘラナデ	ヘラナデ	内外面摩滅
9	11	12	RA669	34	土師器	小型甕	カマド支脚,H2-B17	火床面	11.6	12.3	11.5	10.4	1.1	1.1	木葉痕	ヘラナデ,体部下端粘土粒	ヘラナデ	内外面巻上げ痕，外面上部スス状炭化物
9	12	10	RA669	79	土師器	把手付土器	H2-A17	A	5.2	11.0	—	—	／	／	ヘラケズリ，やや丸底風	ヘラケズリ	ヘラナデ,黒色処理	胎土に砂粒多い
12	1	11	RE096	7	土師器	坏	Pit6,H2-A17	D	4.9	13	—	5.4	2.4	2.7	回転糸切無調整	—	ヘラミガキ,黒色処理	胎土に雲母混じる
12	2	13	RE096	10	土師器	坏	H2-A17	D	〔2.2〕	—	—	3.0	／	／	回転糸切無調整	—	ヘラミガキ,黒色処理	刻書「⊠」,胎土に雲母混じる,内外面摩滅
12	3	11	RE096	20	須恵器	坏	G2-Y16	B	4.9	14.2	—	5.0	2.8	2.9	回転糸切無調整	—	—	
12	4	11	RE096	5	あかやき土器	坏	H2-A17	床面	5.8	15.3	—	5.8	2.6	2.6	回転糸切後ヘラナデ再調整	—	—	
12	5	11	RE096	19	あかやき土器	高台付坏	G2-Y16	B	6.5	15.7	—	7.0	／	／	磨滅，菊花文が一部残存	—	—	全体に摩滅
12	6	12	RE096	15	須恵器	壷	H2-A17	C	〔6.4〕	11.0	〔17.6〕	—	／	／	欠損	—	—	
14	1	12	RD2180	8	土師器	甕	H2-D18	B	〔27.4〕	20.8	21.8	—	1.0	／	欠損	口縁部ナデ,体部ヘラミガキ	口縁部ナデ,体部ヘラナデ	内外面巻上げ痕，内外面摩滅
14	2	12	RD2182	19	土師器	小型甕	G2-T13	B	14.1	14.7	14.9	8.2	1.0	1.0	木葉痕	口縁部ヘラナデ,ヘラミガキ	ヘラナデ	内外面巻上げ痕あり

写　真　図　版



盛南開発地区航空写真（2012年9月撮影）　●調査地点

提供　独立行政法人都市再生機構 岩手都市開発事務所

第２図版

第77次調査区全景（南から）

第77次調査区全景（西から）

平安時代の遺構群（南東から）

ＲＡ669竪穴建物跡　土師器把手付土器出土状況

第４図版

ＲＡ668竪穴建物跡
全景（南から）

ＲＡ669竪穴建物跡
検出状況（南西から）

ＲＡ669竪穴建物跡
Ⅰ期全景（南から）

ＲＡ669竪穴建物跡
Ⅱ・Ⅲ期全景（南から）

ＲＡ669竪穴建物跡
カマド全景（南西から）

ＲＢ141掘立柱建物跡
全景（北西から）

第６図版

ＲＥ094竪穴跡
全景（南から）

ＲＥ095竪穴跡
全景（南東から）

ＲＥ096竪穴跡
全景（南東から）

ＲＤ2179土坑
全景（南東から）

ＲＤ2180土坑
全景（南東から）

ＲＤ2181土坑
全景（東から）

第８図版

ＲＤ2182土坑
全景（南東から）

ＲＤ2183土坑
全景（南から）

ＲＧ614溝跡
全景（南から）

ＲＡ669竪穴建物跡出土土器

ＲＥ096竪穴跡出土土器

第10図版

土師器把手付土器　ＲＡ669竪穴建物跡－Ａ層

土師器坏　ＲＡ669竪穴建物跡ー床面（No.2）

土師器坏　ＲＡ669竪穴建物跡ー床面（No.3）

土師器坏　ＲＡ669竪穴建物跡ー床面（No.4）

あかやき土器坏　ＲＡ669竪穴建物跡ーカマドJ_4層

土師器坏　ＲＥ096竪穴跡ーピット6

須恵器坏　ＲＥ096竪穴跡ーＢ層

あかやき土器坏　ＲＥ096竪穴跡ー床面

あかやき土器高台付坏　ＲＥ096竪穴跡ーＢ層

第12図版

須恵器大甕　ＲＡ669竪穴建物跡－Ａ層

須恵器壷　ＲＥ096竪穴跡－Ｃ層

土師器甕
ＲＡ668竪穴建物跡－床面

土師器甕
ＲＡ669竪穴建物跡－床面（No.1）

土師器甕
ＲＡ669竪穴建物跡－床面（No.2）

土師器小型甕
ＲＡ669竪穴建物跡－火床面

土師器甕
ＲＤ2180土坑－Ｂ層

土師器小型甕
ＲＤ2182土坑－Ｂ層

土師器高台付坏　刻書「｜｜」　ＲＡ668竪穴建物跡－Ａ層

土師器坏　刻書「⋊」　ＲＥ096竪穴跡－Ｄ層

第14図版

調査風景

現地公開（平成25年5月27日開催）

報 告 書 抄 録

ふりがな	だいたろういせき
書　　名	台太郎遺跡
副 書 名	株式会社クリナップ盛岡営業所建設工事に伴う緊急発掘調査報告書
巻　　次	
シリーズ番号	
編著者名	花井正香，佐々木紀子，津嶋知弘
編集機関	盛岡市教育委員会　盛岡市遺跡の学び館
所 在 地	〒020-0866　岩手県盛岡市本宮字荒屋 13 番地 1　電話 019-635-6600　Fax 019-635-6605
発行機関	徳清倉庫株式会社・盛岡市教育委員会
発行年月日	2014 年 3 月 24 日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所 在 地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
		市町村	遺跡番号	世界測地系				
だいたろういせき 台太郎遺跡 第 77 次	いわてけんもりおかし 岩手県盛岡市 むかいなかの 向中野二丁目 7-2	03201	LE16-2269	39° 40′ 45″	141° 08′ 38″	2013.05.01 ～ 2013.06.04	516 ㎡	店舗建設

所収遺跡名	種　　別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
台太郎遺跡	集落	平安時代 古代以降	竪穴建物跡　2 棟 掘立柱建物跡　1 棟 土坑　3 基 竪穴跡　3 棟 溝跡　1 条 土坑　2 基	土師器，あかやき土器，須恵器	平安時代の竪穴建物跡から擦文文化の影響を受けた土師器把手付土器が出土。
要約	台太郎遺跡は大規模土地区画整理事業によって，遺跡西部から中央部が調査されており，古代の竪穴建物跡が約 670 棟確認される，北上川流域で最大規模の集落である。本調査では調査事例の少ない遺跡東部の集落の様相を明らかにすることができた。また北海道を中心とした（北東北の一部含む）擦文文化の影響を受けた土師器 把手付土器は盛岡周辺では初見である。				

台　太　郎　遺　跡

―株式会社クリナップ盛岡営業所建設工事に伴う緊急発掘調査報告書―

2014 年 3 月 24 日 発行

編集　盛岡市教育委員会　盛岡市遺跡の学び館

〒020-0866　岩手県盛岡市本宮字荒屋 13 番地 1

電話 019-635-6600　Fax 019-635-6605

発行　徳清倉庫株式会社　盛岡市教育委員会

印刷　株式会社　吉田印刷

〒020-0016　岩手県盛岡市名須川町 23 番地 27 号

電話 019-625-2323　Fax 019-622-1377